

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガクショウインガク								
フリガナ大学の名称	ガクショウインダガク								
大学の位置	学習院大学 (Gakushuin University)								
大学の目的	東京都豊島区目白一丁目5番1号								
大学の目的	<p>本大学は、総記の精神（本院はすべて社会的地位や身分にかかわらず広く男女学生を教育することを本旨として、教育基本法及び学校教育法に基づいて次の諸学校の学則の定めるところによつてこれらの男女に幼児の保育から大学教育に至る一貫した教養を与え、高潔な人格、確乎とした識見並びに近代人にふさわしい健全で豊かな思想感情を培い、これによつて人類と祖国に奉仕する人材を育成することを目的とする。）に基づき精深な学術の理論と応用とを研究教授し、有用な人材を育成し、もつて文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>国際社会科学部は、広い視野から国際的な発想ができることを活かして、国際的なビジネスで活躍できる人材を育成することを基本の目的とする。社会科学と語学教育を融合させたカリキュラムにより、グローバルな問題を理解し探究するための社会科学的な基礎学力を育み、また、それを活かしてグローバル環境において活躍できるコミュニケーション能力を育むことを目指す。研究においては、国際間の違いが、経済的・社会的な活動に大きな影響を持っていることを、社会を分析する様々な視点から理解することで、諸問題への解決策を考えることを目指す。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	国際社会科学部 (Faculty of International Social Sciences)	年	人	年次人	人		年月第年次	東京都豊島区目白1丁目5番1号	
	国際社会科学科 (Department of International Social Sciences)	4	200	—	800	学士(社会科学)	平成28年4月第1年次		
	計	4	200	—	800				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	学習院大学大学院 法学研究科法律学専攻博士前期課程（10）（平成27年4月届出）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	国際社会科学部 国際社会科学科	169科目	29科目	0科目	198科目	124単位			
教員	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	国際社会科学部 国際社会科学科	10人 (10)	8人 (8)	0人 (0)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	244人 (244)
		計	10 (10)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	—
	既	法学部 法学科	17 (18)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	20 (21)	0 (0)	254 (254)
		政治学科	19 (20)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (20)	0 (0)	265 (265)
		経済学部 経済学科	20 (20)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	245 (245)
		経営学科	20 (20)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	259 (259)
		文学部 哲学科	7 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	11 (12)	0 (0)	244 (244)
		史学科	11 (12)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	235 (235)
日本語日本文学科		12 (12)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	243 (243)	

組 織 の 概 要	英語英米文化学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	249 (249)
	ドイツ語圏文化学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	241 (241)
	フランス語圏文化学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	240 (240)
	心理学科	10 (10)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	235 (235)
	教育学科	9 (10)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	232 (232)
	理学部 物理学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	16 (16)	0 (0)	254 (254)
	化学科	8 (9)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	18 (19)	0 (0)	256 (256)
	数学科	9 (9)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	15 (15)	0 (0)	229 (229)
	生命科学科	8 (8)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	15 (15)	0 (0)	254 (254)
	生命分子科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	東洋文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	史料館	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計算機センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	9 (9)	0 (0)	13 (13)
	スポーツ・健康科学センター	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	18 (18)
	外国語教育研究センター	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	207 (207)
	国際研究教育機構	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	教職課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	55 (55)
	学芸員資格取得	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (24)
	基礎教養	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	203 (203)
	計	197 (203)	18 (18)	1 (1)	51 (51)	267 (273)	0 (0)	-
合計	207 (213)	26 (26)	1 (1)	51 (51)	285 (291)	0 (0)	-	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	61 (59)	人	75 (75)	人	137 (134)	人	
	技 術 職 員	13 (13)		5 (5)		18 (18)		
	図 書 館 専 門 職 員	19 (19)		2 (2)		21 (21)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計	93 (91)		82 (82)		175 (173)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	77,046.05㎡	3,321.53㎡	10,553.23㎡	90,920.81㎡			
	運 動 場 用 地	21,716.00㎡	17,588.00㎡	10,263.00㎡	49,567.00㎡			
	小 計	98,762.05㎡	20,909.53㎡	20,816.23㎡	140,487.81㎡			
	そ の 他	55,628.93㎡	0㎡	8,411.77㎡	64,040.70㎡			
合計	154,390.98㎡	20,909.53㎡	29,228.00㎡	204,528.51㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	93,818.75㎡	0㎡	0㎡	93,818.75㎡				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	93室	39室	104室	12室 (補助職員一人)	6室 (補助職員一人)			
大学全体								

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		国際社会科学部国際社会科学科			18			室		
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用部 機械・器具8,372点 標本29点		
	国際社会科学部 国際社会科学科	1,164,488 [362,905] (1,164,488 [362,905])	25,212 [17,344] (25,212 [17,344])	17,430 [16,912] (17,430 [16,912])	4,925 (4,925)	662 (662)	0 (0)			
	計	1,164,488 [362,905] (1,164,488 [362,905])	25,212 [17,344] (25,212 [17,344])	17,430 [16,912] (17,430 [16,912])	4,925 (4,925)	662 (662)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		12,105.84㎡		1,613		1,858,550				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,060.93㎡		卓球場、柔剣道場、トレーニングセンター		1,908.54㎡				
経費の見積り及び維持の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当たり研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—		
	共同研究費等		530千円	1,070千円	1,620千円	2,200千円	—	—		
	図書購入費	11,240千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—	—		
	設備購入費	40,537千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—	—		
学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,435千円	1,235千円	1,235千円	1,235千円	—	—				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学の名称	学習院大学大学院							平成27年度入学 定員減(△20人)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	法務研究科法務専攻	年	人	年次	人		倍			
	専門職学位課程	3	30	—	130	法務博士(専門職)	0.72	H16年度		
	法学研究科法律学専攻									
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(法学)	0.33	S61年度		
	政治学研究科政治学専攻									
	博士前期課程	2	15	—	30	修士(政治学)	0.65	S54年度		
	博士後期課程	3	5	—	15	博士(政治学)	0.40	S56年度		
	経済学研究科経済学専攻									
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(経済学)	0.52	S54年度		
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(経済学)	0.33	H2年度		
	経営学研究科経営学専攻									
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(経営学)	0.57	S53年度		
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.83	S61年度		
	人文科学研究科哲学専攻									
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(哲学)	0.67	S28年度		
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(哲学)	0.33	S40年度		
	美術史学専攻									
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(美術史学)	0.85	H20年度		
博士後期課程	3	3	—	9	博士(美術史学)	1.33	H20年度			
史学専攻										
博士前期課程	2	15	—	30	修士(史学)	0.89	S40年度			
博士後期課程	3	3	—	9	博士(史学)	0.83	S40年度			
日本語日本文学専攻										
博士前期課程	2	20	—	40	修士(日本語日本文学)	0.88	S28年度			
博士後期課程	3	3	—	9	博士(日本語日本文学)	0.91	S40年度			

既設大学等の状況	英語英米文学専攻								東京都豊島区目白一丁目5番1号
	博士前期課程	2	10	-	20	修士(英語英米文学)	0.52	S32年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(英語英米文学)	0.66	S40年度	
	ドイツ語ドイツ文学専攻								
	博士前期課程	2	5	-	10	修士(ドイツ語ドイツ文学)	0.60	S32年度	
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(ドイツ語ドイツ文学)	0.62	S40年度	
	フランス文学専攻								
	博士前期課程	2	5	-	10	修士(フランス文学)	0.50	S32年度	
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(フランス文学)	0.25	S40年度	
	心理学専攻								
	博士前期課程	2	6	-	12	修士(心理学)	0.49	S55年度	
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(心理学)	1.75	S57年度	
	臨床心理学専攻								
	博士前期課程	2	12	-	24	修士(臨床心理学)	1.02	H21年度	
	博士後期課程	3	3	-	3	博士(臨床心理学)	1.00	H27年度	
	教育学専攻								
	博士前期課程	2	20	-	20	修士(教育学)	1.00	H27年度	
	博士後期課程	3	5	-	5	修士(教育学)	1.00	H27年度	
	アーカイブズ学専攻								
	博士前期課程	2	15	-	30	修士(アーカイブズ学)	0.43	H20年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(アーカイブズ学)	0.99	H20年度	
	身体表象文化学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士(表象文化学)	0.65	H20年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(表象文化学)	0.49	H20年度	
	自然科学研究科物理学専攻								
	博士前期課程	2	15	-	30	修士(理学)	0.93	S28年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(理学)	0.41	S36年度	
	化学専攻								
	博士前期課程	2	15	-	30	修士(理学)	1.18	S28年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(理学)	0.58	S36年度	
	数学専攻								
	博士前期課程	2	6	-	12	修士(理学)	0.79	S42年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(理学)	0.49	S44年度	
	生命科学専攻								
博士前期課程	2	15	-	30	修士(理学)	0.51	H20年度		
博士後期課程	3	3	-	9	博士(理学)	0.74	H20年度		
既設大学等の状況	大学 の 名 称	学 習 院 大 学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	法学部						1.01		
	法学科	4	250	-	1,000	学士(法学)	1.01	S39年度	
	政治学科	4	230	-	920	学士(政治学)	1.01	S24年度	
	経済学部						1.07		
	経済学科	4	250	-	1,000	学士(経済学)	1.06	S27年度	
経営学科	4	250	-	1,000	学士(経営学)	1.08	S49年度		

既設大学等の状況	文学部						1.04				
	哲学科	4	95	-	380	学士(哲学)	1.08	S24年度		東京都豊島区目白一丁目5番1号	
	史学科	4	85	-	340	学士(史学)	1.04	S36年度			
	日本語日本文学科	4	110	-	440	学士(日本語日本文学)	1.00	S32年度			
	英語英米文化学科	4	115	-	460	学士(英語英米文化学)	1.05	S32年度			
	ドイツ語圏文化学科	4	50	-	200	学士(ドイツ語圏文化学)	1.05	S32年度			
	フランス語圏文化学科	4	80	-	320	学士(フランス語圏文化学)	1.01	S32年度			
	心理学科	4	90	-	360	学士(心理学)	1.07	S50年度			
	教育学科	4	50	-	150	学士(教育学)	1.01	H25年度			
	理学部						1.07				
	物理学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.10	S24年度			
	化学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.06	S24年度			
数学科	4	60	-	240	学士(理学)	1.02	S38年度				
生命科学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.12	H21年度				
既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	国際文化交流研究科 国際文化交流専攻 修士課程	2	10	-	20	修士(国際文化交流)	0.82	H16年度	東京都新宿区戸山三丁目20番1号		
既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	国際文化交流学部						1.09				
	日本文化学科	4	140	5(3年次)	570	学士(日本文化)	1.10	H10年度	東京都新宿区戸山三丁目20番1号		
	国際コミュニケーション学科	4	170	5(3年次)	690	学士(国際コミュニケーション)	1.10	H10年度			
英語コミュニケーション学科	4	45	-	180	学士(英語コミュニケーション)	1.03	H18年度				
附属施設の概要	名称	外国語教育研究センター									
	目的	外国語に関する教育・研究活動を総合的に行う									
	所在地	東京都豊島区目白一丁目5番1号									
附属施設の概要	設置年月	平成9年4月									
	規模	等：使用面積400㎡(事務室・研究室・自習室)									
	名称	計算機センター									
附属施設の概要	目的	電子計算機及び電子通信機器による各種情報処理に関する教育及び研究活動を総合的に行う									
	所在地	東京都豊島区目白一丁目5番1号									
	設置年月	平成10年4月									
附属施設の概要	規模	等：使用面積536㎡(事務室・研究室・実習室)									
	名称	スポーツ・健康科学センター									
	目的	スポーツ科学及び健康科学の教育並びに体育・スポーツ活動及び健康教育に関する専門的業務を総合的に行う									
附属施設の概要	所在地	東京都豊島区目白一丁目5番1号									
	設置年月	平成13年4月									
	規模	等：使用面積262㎡(事務室・研究室)									

教育課程等の概要															
(国際社会科学部国際社会科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	英語科目	10 English Communication I	1前	2				○			1				兼5
		00 Academic Skills I	1前	2				○			3				兼4
		00 Presentation I	1前	1					○		4	1			兼2
		00 Self-Directed Learning I	1前	1					○		2	1			兼2
		00 English Communication II	1後	2					○			1			兼5
		00 Academic Skills II	1後	2				○			3				兼4
		00 Presentation II	1後	1					○		4	1			兼2
		00 Self-Directed Learning II	1後	1					○		2	1			兼2
	20 Economics in the World	2前	1				○			2					兼5
	00 Issues in the World	2前	1				○			1	1				兼4
	小計(10科目)	—	14	0	0		—		4	1	0	0	0	兼14	
海外研修科目	10 海外研修 I	1前	1				○			2					
	20 海外研修 II	1後・2・3前・後	1					○		2					
		小計(2科目)	—	2	0	0		—		2	0	0	0	0	
専門科目	10 入門演習 I	1前	2					○		6	7				兼1
	00 入門演習 II	1後	2					○		6	7				兼1
		小計(2科目)	—	4	0	0		—		6	7	0	0	0	兼1
総合基礎科目	10 初等情報処理 1	1前	2					○							兼1
		小計(1科目)	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1
選択必修科目	英語科目	20 Globalization and Business	2後		1			○		1					兼3
		00 Peace and Conflict	2後		1			○		2					兼2
		00 Advertising and the Media	2後		1			○		1					兼1
		00 Social Diversity	2後		1			○							兼2
		00 Global Challenges	2後		1			○			1				兼1
		小計(5科目)	—	0	5	0		—		4	1	0	0	0	兼9
専門科目	10 国際ビジネスのための法学	1前		2			○			1	1				
	00 開発と環境の地理学	1前		2			○			1					
	00 社会学	1前		2			○			1					
	00 中国経済論	1後		2			○			1					
	00 アジア経済論	1後		2			○		1						
	00 国際開発論	1前		2			○			1					
	00 ミクロ経済学	1前		2			○		1						
	00 社会科学のためのデータ分析	1後		2			○		1						
	00 マクロ経済学	1後		2			○			1					
	00 グローバル経済論	1前		2			○		1						
	00 マネジメント論	1後		2			○			1					
	00 会計学	1後		2			○			1					
00 マーケティング	1前		2			○		1							

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
選択必修科目 専門科目	100 簿記	1後		2		○									兼1	
	100 統計学	1後		2		○									兼1	
	100 社会科学のための数学	1前		2		○									兼1	
	100 経営戦略	1前		2		○									兼1	
	100 世界の宗教文化	1後		2		○									兼1	
	200	200 国際企業法	2前		2		○				1					兼1
		200 世界の貧困問題	2後		2		○			1						
		200 計量社会学	2前		2		○				1					
		200 中国社会の経済分析	2前		2		○				1					
		200 地域研究の手法	2前		2		○			1						
		200 アフリカ経済論	2前		2		○				1					
		200 国際貿易論	2後		2		○			1						
		200 経済成長論	2前		2		○			1						
		200 国際金融論	2前		2		○				1					
		200 経済政策論	2前		2		○			1						
		200 組織行動論	2前		2		○				1					
		200 国際会計論	2前		2		○				1					
		200 マーケティングと消費者行動	2前		2		○			1						
		200 ゲーム理論	2前		2		○									
		200 Law and Economics	2後		2		○				1					
		200 Sustainable Development	2前		2		○			1						
		200 Sociology of Population	2後		2		○				1					
		200 Modern Chinese Economy	2後		2		○				1					
		200 Emerging Asian Economy and Society	2後		2		○			1						
		200 Economic Development	2後		2		○				1					
		200 International Economics	2前		2		○			1						
	200 Productivity and Efficiency Analysis	2後		2		○			1							
	200 International Finance: Theory	2後		2		○				1						
	200 Japanese Economy	2後		2		○			1							
	200 Cross-Cultural Organizational Behavior	2後		2		○				1						
200 Financial Accounting	2後		2		○				1							
200 Marketing Strategy	2後		2		○			1								
300	300 Corporate Finance and Law	3・4後		2		○				1						
	300 Case Study Methods	3・4前		2		○			1							
	300 International Migration	3・4前		2		○				1						
	300 China's Economic Sustainability and Social Issues	3・4後		2		○				1						
300 Politics and Economy in Southeast Asia	3・4前		2		○			1								

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	3000 Education and Economic Development in Africa	3・4後		2		○				1					兼1 兼2 兼1 兼1 共同
	Current Economic Issues in the Global Economy	3・4前		2		○			1						
	Globalization, Economic Growth and Income Distribution	3・4前		2		○			1						
	International Finance: Policy	3・4前		2		○				1					
	International Business	3・4後		2		○			1						
	International Human Resource Management	3・4前		2		○				1					
	Cost Accounting	3・4後		2		○				1					
	Marketing Strategy and Consumer Research in International Markets	3・4後		2		○			1						
	Asian Business Law	3・4前		2		○									
	International Comparison of Law and Society	3・4前		2		○									
	International Trade Law	3・4後		2		○									
	Game Theory and Negotiation	3・4後		2		○									
	専門演習 I	3前		2			○		6	7					
専門演習 II	3後		2			○		6	7						
4000 卒業論文・卒業演習	4通		4			○		6	7						
小計 (65科目)		—	0	132	0	—		6	7	0	0	0	兼9		
選択科目	2000 Theme-Based Discussions : The Economy	2・3前・後		1			○		1					兼2	
	Theme-Based Discussions : Law and Society	2・3前・後		1			○							兼1	
	Theme-Based Discussions : Business	2・3前・後		1			○							兼2	
	Theme-Based Discussions : International Relations	2・3前・後		1			○			1				兼1	
	Group Project	2・3前・後		1			○		1					兼1	
	Business Communication	2・3前・後		1			○							兼2	
	Critical Reading	2・3前・後		1			○		1						
	Advanced Academic Writing	2・3前・後		1			○		1						
	Oral Fluency	2・3前・後		1			○		1	1				兼1	
	3000 Area Studies	3・4前・後		2			○			1					
Independent Studies	4前・後		2			○		1							
小計 (11科目)		—	0	13	0	—		3	1	0	0	0	兼4		
総合基礎科目	1000 哲学	1・2・3・4通		4			○							兼1	
	美とロゴス	1・2・3・4前		2			○							兼8	
	論理学	1・2・3・4通		4			○							兼1	
	西洋倫理学史	1・2・3・4通		4			○							兼1	
	東アジアと日本の倫理思想	1・2・3・4通		4			○							兼1	
	現代思想	1・2・3・4通		4			○							兼1	



# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目 総合基礎科目	科学の考え方	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	思想史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	応用倫理学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	中国の思想と文化	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	言語と文化	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	比較文学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	舞台・映像芸術	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本美術史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	西洋美術史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	音楽史	1・2・3・4通		4		○								兼2	共同
	日本の伝統芸能	1・2・3・4通		4		○								兼23	オムニバス
	法学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
	政治学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	社会学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	イスラム世界	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	ヨーロッパ世界	1・2・3・4通		4		○								兼2	共同
	東アジア世界	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	南アジア世界	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	神話学講義	2・3・4通		4		○								兼1	
	歴史に見る日本	1・2・3・4通		4		○								兼2	共同
	歴史に見る世界	1・2・3・4通		4		○								兼2	共同
	宗教の現在	1・2・3・4通		4		○								兼6	オムニバス
	現代科学	1・2・3・4通		4		○								兼28	オムニバス
	数学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	歴史の中の数学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	現代社会と数学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会の中の数学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	時間・空間・物質の科学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	環境・エネルギーの化学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	生物学1	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	生物学2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	心理学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	スポーツと健康を考える	1・2・3・4通		4		○								兼3	オムニバス
	スポーツ科学演習	1・2・3・4通		4			○							兼1	
	生命論	1・2・3・4通		4		○								兼2	共同
	エコロジー（環境問題の基礎）	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	エコロジー・環境論1	1・2・3・4前		2		○								兼8	オムニバス
	エコロジー・環境論2	1・2・3・4後		2		○								兼7	オムニバス
	福祉	1・2・3・4通		4		○								兼12	オムニバス
ボランティア論	1・2・3・4通		4		○								兼9	オムニバス	
ジェンダーと文化	1・2・3・4通		4		○								兼1		
記録保存と現代	1・2・3・4通		4		○								兼20	オムニバス	
記録管理と組織	1・2・3・4後		2		○								兼4	オムニバス	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
選 択 科 目	総合基礎科目	100														
	生活と法	1・2・3・4前		2		○									兼1	オムニバス
	アジアを学ぶ	1・2・3・4前		2		○								兼2		
	日本語表現法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
	キャリア・デザイン概論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
	英語で学ぶ日本事情－文化・社会・科学	1・2・3・4後		2		○								兼7	オムニバス	
	近代日本と学習院	1・2・3・4通		4		○								兼2	共同	
	スポーツ・健康科学Ⅰ	1・2・3・4通		2			○							兼23	集中	
	スポーツ・健康科学Ⅲ a	1・2・3・4前・後		1			○							兼20		
	スポーツ・健康科学Ⅲ b	1・2・3・4前・後		1			○							兼3		
	初等情報処理2	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	ドイツ語B (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1	集中	
	ドイツ語C (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ドイツ語R (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ドイツ語C (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ドイツ語R (上級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ドイツ語C (上級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ドイツ語セミナー	1・2・3・4通		4			○							兼1		
	フランス語B (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	フランス語C (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	フランス語R (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	フランス語C (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	フランス語R (上級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	フランス語C (上級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	フランス語セミナー	1・2・3・4通		4			○							兼1		
	中国語B (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	中国語C (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	中国語R (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	中国語C (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	中国語R (上級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	中国語C (上級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	中国語セミナー	1・2・3・4通		4			○							兼1		
	ロシア語B (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ロシア語C (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ロシア語R (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
	ロシア語C (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1		
スペイン語B (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
スペイン語C (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
スペイン語R (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
スペイン語C (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
イタリア語B (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
イタリア語C (初級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
イタリア語R (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			
イタリア語C (中級)	1・2・3・4通		2			○							兼1			

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目 総合基礎科目	朝鮮語B (初級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	朝鮮語C (初級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	朝鮮語R (中級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	朝鮮語C (中級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	アラビア語B (初級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	アラビア語C (初級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	アラビア語R (中級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	アラビア語C (中級)	1・2・3・4通		2		○									兼1
	日本語C (上級)	1・2・3・4前・後		1		○									兼1
小計 (102科目)		—	0	289	0	—			0	0	0	0	0	0	兼221
合計 (198科目)		—	18	439	0	—			10	8	0	0	0	0	兼243
学位又は称号		学士 (社会科学)	学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業要件：124単位 必修科目：22単位 (内訳) 英語科目：14単位 「海外研修Ⅰ」、「海外研修Ⅱ」：2単位 「入門演習Ⅰ」、「入門演習Ⅱ」：4単位 「初等情報処理Ⅰ」：2単位  選択必修科目：74単位以上 (内訳) 英語科目：2単位以上 専門科目： 100番台：16単位以上 200番台：32単位以上 300・400番台：12単位以上 ※100・200・300番台の専門科目(講義)には、指定された法学部・経済学部科目を含む  選択科目： (内訳) 英語科目及び総合基礎科目のうち、英語を除く外国語科目：上限12単位 指定された法学部・経済学部科目を除く他学部他学科科目：上限8単位 基礎教養科目：上限8単位 スポーツ・健康科学科目：上限4単位 必修を超える情報科目：上限2単位  その他： ・4週間以上の海外研修への参加を必須とする ・選択必修科目のうち、英語により開講される専門科目(講義)から20単位以上履修すること ・「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」又は「卒業論文・卒業演習」のいずれか1科目以上を履修すること ・履修科目の登録の上限は半期24単位とする ・「日本語C(上級)」は日本語を母語としない者のみ履修可能とする						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
(国際社会科学部国際社会科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
必修 科目	英語 科目	1 0 0	English Communication I  The aim of the course is to develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and speaking. Students will use English to understand and respond to content that is relevant to their university life and subsequent academic work. In small-sized classes, students will engage in communicative tasks such as pair activities and group discussions as well as short speeches and leading group discussions which require preparation and rehearsal in advance.  この授業では、学生生活や社会科学に関連する内容を英語で理解し、考えを発信する練習から、英語を使ったコミュニケーション能力を向上させる。具体的には準備学習の内容をもとに、英語を使ったペア・アクティビティやグループ・ディスカッションを行い、英語のコミュニケーションの訓練を行う。また、スピーチやディスカッションのリーダー役を決め、事前準備が必要となるスピーキング課題にも取り組む。	
			Academic Skills I  Students will develop their reading and writing skills. To assist in both areas, they will study academic vocabulary and expressions. They will learn and practice different ways of reading, researching, organizing, and writing information and ideas. They will learn how to self edit and peer edit their work. The underlying principle of the course is to help students become more proficient in academic language use. Students will be required to practice these skills in class and on their own.  この授業では、リーディングとライティングスキルを養成するために、学術的な語彙や表現を学ぶ。また、情報やアイデアを読み取り、収集し、整理をし、記述する様々な方法を学び、実践する。ライティングの課題を自分で修正し、クラスメートとの相互編集も行う。この授業の目的は、アカデミックな環境で英語をスムーズに使用することができるようになることにあり、学生たちは、修得したスキルを授業内外で練習することが求められる。	
			Presentation I  In this class, students will learn basic academic English skills, vocabulary, and broad perspectives that are needed to study, examine, discuss, and make effective presentations on various aspects of Japanese culture. They will also learn how to gather textual materials written and spoken in English about Japanese culture on the Internet, and the processes to put them together to make meaningful presentations for audiences interested in social science audiences.  この授業では、学生は日本文化の様々な側面について調べ、検討し、議論し、英語で効果的にプレゼンテーションする為に必要なスキル、語彙、考え方を学ぶ。また、日本文化について英語で書かれ、議論されている話題を、インターネットを通して集め、日本に興味を持つ人々にとって付加価値のあるプレゼンテーションにまとめていくプロセスを学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修 科目	英語 科目	1 0 0	
	Self-Directed Learning I	<p>Self-directed learners form their own goals, select learning tools, and evaluate their achievements. However, students must learn to manage their studies and have access to the resources they need to accomplish these three aims. This course will provide learners with the knowledge, skills, and understanding to organize and monitor their own learning more effectively. Learners will acquire techniques for: managing time; setting appropriate goals; reflecting and reporting on their learning; and adjusting their studies to meet their personal language learning needs. Instructors will evaluate progress and assist learners in applying language learning techniques and principles, and using study tools effectively.</p> <p>この授業では、英語学習を効果的に自己管理する力を学び、また、目標を達成するためのリソースの入手手段を知る。修得したスキルを基に、学習計画の立案、ツール選択、達成度評価を行い、時間管理・適切な目標設定・進捗状況の報告・学習目標の調整などのスキルを養う。教員は、学生がいかに修得したスキルや原則を活用し、効率的に英語学習を進められるかを補助し、その活用の仕方を評価する。</p>	
	English Communication II	<p>The aim of the course is to further develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and speaking by utilizing the skills and vocabulary gained in English Communication I. Students deal with more complex and sophisticated content presented in English that is relevant to their university life and subsequent academic work including lectures and academic texts. In small-sized classes, students continue to engage in communicative tasks such as pair activities and group discussions as well as making short speeches and leading group discussions which require preparation and rehearsal in advance.</p> <p>この授業では、学生生活や社会科学に関連する、より複雑な内容を英語で理解し、考えを発信する練習から、更なる英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、英語を使った授業や学術的な内容のリーディングをもとに、引き続きペア・アクティビティやグループ・ディスカッションを行い、高度な英語のコミュニケーションの訓練を行う。また、スピーチやディスカッションのリーダー役を決め、事前準備が必要となるスピーキング課題にも取り組む。</p>	
Academic Skills II	<p>Building on the knowledge base and abilities acquired in Academic Skills I, this course will continue to develop students' reading and writing skills, this time with stronger emphases on reading longer, more sophisticated texts, on critical thinking about the texts and concepts therein, and on notetaking. Vocabulary development will continue to be a focus, using the Academic Word List (AWL) as the corpus. In addition, more sophisticated research skills will be addressed to assist students in improving summarizing and paraphrasing skills, with the end goal of writing a referenced academic essay.</p> <p>Academic Skills Iで修得した知識とスキルを土台に、より長く複雑な文章を、クリティカルシンキング・スキルを用いて読解し、ノート・タイピングを行うことを通じ、リーディング及びライティングスキルを更に養成する。Academic Word List (AWL)を基本とし、語彙の拡大も引き続き行う。加えて、複雑なリサーチスキルを扱い、要約・意識(言い換え)スキルを向上させ、引用付のレポートを書くことを最終目標とする。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修 科目	英語 科目	1 0 0	
	Presentation II	<p>In this class, students will learn academic English skills, knowledge, and broad perspectives that are needed to study, examine, discuss, and make effective presentations on various spheres of Japanese society. The students will also learn the ways to gather textual materials in written and spoken English about Japanese society on the Internet, and the processes to put them together to make an academic presentation for social science audiences.</p> <p>この授業では、学生は日本社会の様々な領域について調べ、検討し、議論し、英語で効果的にプレゼンテーションする為に必要なスキル、知識、考え方を学ぶ。また、日本社会について英語で書かれたり、議論されている話題を、インターネットを通して集め、日本社会に興味を持つ人々に向けて、付加価値のある学問的なプレゼンテーションにまとめていくプロセスを学ぶ。</p>	
	Self-Directed Learning II	<p>This course will provide learners with guidance and support needed to apply the knowledge, skills, and understandings gained in Self-directed Learning I to better organize and monitor their own learning more effectively. Learners will apply techniques for managing time, setting appropriate goals, evaluating performance, and reporting on their English language learning to plan and carry out individual study plans that meet their individual language needs and personal interests. Reflection activities will help learners understand how to apply these skills more broadly to learning other subjects as well. Instructors will assist learners in effectively studying the English language as self-directed and more autonomous learners.</p> <p>この授業では、SDL Iで修得した知識・スキル・理解を応用し、学習をより効率的・自律的に進めるために必要な管理方法などの指導を行う。学生たちは、修得したスキルを英語学習の時間管理・適切な目標設定・パフォーマンスの評価・進捗状況の報告に応用し、個々のニーズに見合った学習計画を立案し、遂行する。また、振り返りの時間では、修得したスキルをどのように応用すれば、他授業でも広く応用し活用することができるのか理解を促し、教員はより効率的且つ自律的な学習ができるようにアシストする。</p>	
2 0 0	Economics in the World	<p>Beginning with an overview of how the world economy is globalized, the course will progress to the basic language and concepts necessary to understand the discourse on international economics. Students will learn about, and speak and write about various issues in the world economy by looking at specific examples. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.</p> <p>グローバル経済を概観し、世界経済を語る際に欠かせない基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、世界経済における諸問題について学び、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目 英語科目 2000	Issues in the World	<p>Beginning with an overview of international development and cooperation, the course will progress to the basic language and concepts necessary to understand the discourse on global development. Students will learn about, and speak and write about various issues associated with development of countries by looking at specific examples. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.</p> <p>国際開発と協力を概観し、国の開発を語る際に欠かせない基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、世界経済における諸問題について学び、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。</p>	
海外研修科目 1000	海外研修 I	<p>国際社会科学部の学びの中で、卒業要件となっている海外研修の理解を深め、モチベーションを高めるとともに、自分にとって、どのような留学が適切であるかを考え、実行するための計画を立てる。また、基本的な留学への予備知識として、海外の大学の授業内容や形態、手続き、海外での生活様式への対応方法、危機管理、コミュニティー活動や課外活動の可能性等を学ぶ。自ら積極的に行動する態度を育成する為に、チームに分かれて、討論や発表を行う。</p>	
	海外研修 II	<p>海外研修を振り返り、その成果と研修プログラムを様々な視点から振り返り、客観的に評価をする。また、その経験と学びをこれからの社会研究及び将来のキャリアに結びつけて行く道筋を、各々の学生が考え、調べ、報告をすることで研修成果の価値を高める。海外研修報告レポートを作成するとともに、チームに分かれて討論や発表を行うことにより、海外経験で身につけたチャレンジ精神、積極的な行動様式や態度の維持を図る。</p>	
専門科目 1000	入門演習 I	<p>社会科学の考え方やその分析に関する基礎的な方法論を少人数の演習形式で学習する。最初に社会科学とは何かについて議論する。次に、図書館やデータベースなどを使って資料をどのように集めたらよいかとどのように利用したらいいかを実際に資料を集めながら学ぶ。その後、具体的な国際社会の事例を取り上げてレポートの作成方法および論文等作成に関わる倫理を学ぶ。具体的には、①問題設定の方法、②論理的な議論の構築、③そのためのデータの収集と利用方法、④説得的な議論の展開方法について、実際にレポートを作成し、それについて発表しながら学習する。</p>	
	入門演習 II	<p>入門演習 I で学習した基礎的な方法論を用いて、現実の課題について分析を行う。社会科学の方法を実践してみようことを目的とし、少人数の演習形式で行う。入門演習では理論の応用としての本格的な分析ではなく、仮説を立て実証するという方法論を学ぶことを主眼とする。入門演習 I で学んだことを深めていくことに加えて、入門演習 II では効果的なプレゼンテーション、ディスカッションについてプレゼンテーション・ソフト等を使用して修得する。</p>	
総合基礎科目 1000	初等情報処理 1	<p>現代社会において、計算機の利用法は多岐にわたり、計算機を使いこなすことが現代人の必須条件となっている。たとえばレポート（一般社会では報告書）はワープロで書くことが普通になり、就職情報の取得や資料請求などでインターネットを利用することが多くなっている。この授業では、計算機を文房具代わりとして使いこなせるようになることを目的としている。情報処理に関する初心者を対象にするが、学生生活中必要な事項を学ぶので、できるだけ早い時期に履修することが望ましい。また、この授業では、世界各国に接続されたインターネットの使用法や、それを使用する際に起こり得るトラブルの回避法や情報倫理について学び、実用的文房具としてのワープロ、表計算ソフトの必要最小限の知識が得られるようにする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	英 語 科 目	2 0 0	
	Globalization and Business	<p>Beginning with an overview of globalization and how it has been affecting business, the course will progress to the basic language and concepts related to globalization with an emphasis on business. Students will learn about, analyse, and speak and write about globalization and business by looking at specific examples. They will look at various forms of globalization and the impact they have on society and local businesses. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.</p> <p>グローバル化の世界的な動きとビジネスへの影響を概観し、ビジネスのグローバル化を語る際に欠かせない基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、ビジネスとグローバル化の動きについて学び、分析し、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。様々なグローバル化の形態とそれらの社会とローカル・ビジネスに対する影響を考える。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。</p>	
	Peace and Conflict	<p>Beginning with an overview of resolved and unresolved conflicts around the world, the course will progress to the basic language and concepts to aid students to understand international affairs. Students will learn about, analyse, and speak and write about peace and conflicts by looking at specific examples. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.</p> <p>世界の解決、未解決の紛争を概観し、平和と紛争を語る際に欠かせない基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、平和と紛争について学び、分析し、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。</p>	
	Advertising and the Media	<p>Beginning with an overview of advertising and the media, the course will progress to the basic language and concepts of advertising. Students will learn about, analyse, and speak and write about how advertising works by looking at specific examples. Similarly, they will look at various media forms and the impact they have on society. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.</p> <p>広告とマスメディアを概観し、広告に関連する基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、広告がどのように機能するのか学び、分析し、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。また、様々なマスメディアの種類や、それが持つ社会への影響を考察する。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。</p>	
Social Diversity	<p>Beginning with an overview of how many societies are becoming more diverse, the course will progress to the basic language and concepts of social diversity. Students will learn about, analyse, and speak and write about how increased diversity impacts social interaction and integration of societies by looking at specific examples. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.</p> <p>多くの国や社会において高まっている多様性を概観し、社会におけるダイバーシティを語る際に欠かせない基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、多様化が社会的相互関係と社会の融合に影響を与えるかを、分析し、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。</p>		



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	英 語 科 目	2 0 0  Global Challenges	Beginning with an overview of practical challenges and dilemmas the world faces, the course will progress to the basic language and concepts related to global development. Students will learn about, analyse, and speak and write about development of countries by looking at specific examples. Students will continue to develop the communication and academic skills they acquired during their first year.  国際社会が抱える現実の問題とジレンマを概観し、国際開発を語る際に欠かせない基礎的な表現やコンセプトを学ぶ。具体的な例を使いながら、世界の国々の発展を、分析し、自分の考えを発言もしくは文章として発信する。1年次に得たコミュニケーション及びアカデミックスキルを使い、さらに発展させる。
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目	1 0 0	
	国際ビジネスのための法学	この授業では、国際的な企業活動に関わる法制度の内容を概説する。学生が将来国際ビジネスにおいて法律問題に直面した際に法律の専門家との間で有効なコミュニケーションを行うために最低限必要となる企業法務の知識・概念を修得することが目標となる。したがって、法制度の機能や仕組みの解説を中心とした授業内容とし、いわゆる法解釈論は講じない。また、この授業の内容は日本の法制度をベースとしたものとなるが、他の国・地域の法制度についても言及することがある。	
	開発と環境の地理学	地理学は各地域の風土や人々の暮らしを描写するだけでなく、人間と自然環境の関係を探究する学問分野である。対象とする「空間・場所」に存在するもの、そこで起こっている事象をすべて網羅し、その「空間・場所」を総合的に理解しようと試みる。このような視点に立つと、経済学に依拠した各国の政府や世界銀行等の援助機関主導で行われてきた発展途上国の開発について多様な見方が可能であることに気付く。開発、そして開発の一つの結果としての環境の変化に焦点を当てて、①都市空間、農村空間それぞれの文脈で開発及び環境問題を捉えること、②「空間・場所」を複数の異なる視点から考察することを中心テーマとする。	
	社会学	この授業では、社会学の基礎を学ぶことで、現代社会の分析の仕方を身につけることを目的とする。授業では、まず社会学の理論・研究方法を概観したのち、家族・学校・仕事・国など我々の身近にある「社会」を社会学がどのように分析してきたかを解説していく。さらに、これらの社会的なものを用いて、日本を含む様々な国と社会で起きている諸現象を分析・考察する。この授業を通して、学生は、個人と社会の関係、社会の機能と変化など、社会学の基礎知識を学び、多様な社会の仕組みを自ら分析できるようになることを目指す。	
	中国経済論	過去三十年間に渡り、中国の経済は急成長を遂げ、今日では、「世界の工場」と呼ばれ世界第2位の経済力を持つまでに至っている。今後は、中国経済のさらなるグローバル化が世界経済へ及ぼす影響が大きく注目される。この授業では、中国経済の歴史的背景、仕組み、経済政策などを紹介した上で、中国経済がどのように発展してきたのか、なぜ中国は高い経済成長を遂げることができたのか、現在、中国経済がどのような問題を抱えているのか、などを論じ、中国経済の進む方向を考察していく。	
	アジア経済論	日本にとってアジアは、ますます重要な地域になっている。そこで、アジア（国際社会）を見ていく上で3つの開発指標（経済、社会、人間）があることを示し、次いで、アジア社会が単一な地域ではなく、人口規模、地理的条件、民族・言語、宗教面で多様な世界であることを理解する。その上で、アジアの経済成長、貧困と格差、人口転換、農業発展、工業発展、労働市場、教育制度、地球環境問題などを順次取り上げ、最後に、アジアと日本の関係の現状と今後、日本が取り組むべき課題が何かについて理解が進むように授業を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	1 0 0  国際開発論	この授業では開発途上国の様々な課題と国際協力について学ぶ。具体的には、貧困、食と栄養、保健/衛生、ジェンダー、教育、農業、経済、雇用、行政/政治、環境等における課題を学ぶ。そして二国間援助機関や多国間援助機関、NGO、企業がそれらの課題にどのように取り組んでいるかを知る。さらに、日本が国際社会においてどのような貢献をしているかについても学ぶ。授業ではそれぞれのテーマに関連する専門用語や簡単な統計を紹介する一方で、担当教員の国際機関やNGOでの経験をもとに、具体的な事例を画像や映像を交えて紹介しながら、それぞれの課題を説明する。	
	マイクロ経済学	国際標準的なマイクロ経済学を授業。マイクロ経済学は、経済学の様々な分野の基礎となるものであるため、この授業は経済学を身につけようとする学生にとって重要な第一歩となる。授業では、合理的な経済主体の行動、それらが交わる市場、市場メカニズムによる社会の厚生最大化、市場メカニズムが上手く働かない状況、について学ぶ。更には、税制、生産要素市場（労働と資本）などについて学ぶ。	
	社会科学のためのデータ分析	社会科学の分析において、実際の社会事象に関連するデータを用い、各種の社会科学の理論を検証することが必須となっている。この検証における代表的な統計的手法は、回帰分析であり、この授業において、回帰分析の理論的背景を学んだ上で、エクセルを用いて実際の経済社会データを使用して回帰分析を適用する方法、その結果を解釈する能力を修得する。加えてデータの取得方法、レポートの書き方についても学ぶ。各自の関心をもつ経済社会活動についてのデータを取得し、その実証分析のレポートを作成することを最終目標とする。	
	マクロ経済学	この授業はマクロ経済学の入門コースである。この授業ではマクロ経済学の基本的な諸概念と理論を体系的に修得し、最近の日本経済および国際経済の動向をマクロ経済学的な視点から捉える能力を身につけることを目標とする。また、データを重視し、現実経済に対する問題意識を高めることに主眼を置く。取り扱うテーマは、国民所得統計、消費と投資、貨幣の需要と供給、IS-LM分析などである。授業は講義形式で行う。指定教科書に基づいて授業するが、適宜新聞記事や関連するトピックのデータを紹介する。	
	グローバル経済論	この授業ではグローバル経済について、実例を中心に解説するとともに、その学習を通じて国際経済学の考え方にも触れてもらう。具体的には、貿易や投資のメカニズム、為替レートの変動、企業の国際活動、通商交渉、地球環境問題、経常収支の動きなどについて言及する。日本経済の日々の動きがいかにグローバル経済とつながっているかについても論じてみたい。	
	マネジメント論	マネジメントとは何かということから始まり、マネジメントに関するこれまでの代表的な理論を概観する。そして、組織とそれを取り巻く環境、経営管理との関係を検討する。特に、この授業では、マネジメント論における（1）人間観の変遷、（2）ワーク・モチベーション、及び（3）国際マネジメントなどのテーマを中心に、基礎的な理論の説明とともに、さまざまな組織における実際の具体例を紹介する。	
	会計学	この授業では、会計学の基礎概念について学習する。会計の目的を理解し、その目的達成のために、会計制度がどのように設計されているのかを説明する。収支の期間配分、費用配分のバリエーション、利益の認識と測定、資産・負債の認識・測定や資本会計について学習し、会計の目的観からそれらの問題をどのように説明できるのかを理解する。また、企業のパフォーマンスを測る純利益の概念や、企業の財政状態を表す貸借対照表の構成要素についても学習する。適宜、多国籍企業のケースを取り上げながら、基本的な決算書分析についても理解する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目	1 0 0	
	マーケティング	前半では、さまざまなグローバル企業の経営管理・経営戦略の概要を学ぶ。第1～2回ではグローバル企業の経営において経営管理が果たす役割と経営戦略の基礎を理解する。第3～5回ではグローバル企業の全社戦略を学ぶ。第6～8回までは個別の事業戦略を学ぶ。後半では、グローバル企業の経営において重要な役割を果たすマーケティングの基礎を学ぶ。第9～10回ではマーケティングとは何かについて理解する。第11～12回では市場セグメンテーションとターゲティングについて学ぶ。第13回と第14回では、マーケティング実践の基本となるポジショニングと4Pのマネジメントを学ぶ。また各パートでは、さまざまなグローバル企業のケースを用いて討議を行う。	
	簿記	複式簿記は、企業の経済活動(取引)を二面からとらえて記録・計算することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにするしくみである。複式簿記は、今日では広く普及して世界中で用いられており、それに関する知識は、会計学関連科目の基礎となるばかりでなく、経営学や経済学の学習にとっても必要である。この授業では、複式簿記の基本的なしくみを、初心者を対象として段階的にわかりやすく説明する。	
	統計学	この授業では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、データ解析・統計学の考え方と実際について、その基本事項を解説する。対象は文理を問わない。専門課程で諸科学を学ぶ際に特に重要な役割を果たす、確率分布(=現象のモデル化)、独立同一分布性(=同一条件の下での繰り返し実験)、統計的推測(=データから母集団への推論)の考え方を理解することに焦点を当てる。	
	社会科学のための数学	この授業では、微分の基礎について学ぶ。(1)まずは、(ある程度)フォーマルに定義し、(2)その理解のために直感的な意味(たとえば幾何的な意味や解析的な意味)を与え、(3)経済学でそれに対応した概念を説明するという3つの手順で説明をする。その上で、計算演習に加え、簡単なモデルを設定し、経済学における応用の中で、実際の解き方を学ぶ。1変数関数の微分、高階の微分、多変数関数の全微分と偏微分、指数関数・対数関数の微分を扱う。	
	経営戦略	あらゆる組織において、経営戦略は将来の方向性や日々の働き方に大きな影響を与える“舵取り”の根幹をなすものである。この授業では、企業の経営戦略論を中心に、これまでに発展してきた学説の全体像を、初めて学ぶ人にも分かり易い形で説明して、ビジネスの基本となる思考法を身につけることを目指す。テキストを使って経営戦略の各論の基本をマスターすることに約半分の時間を費やすが、残り半分では、1)戦略理論の最新動向、2)国際ビジネス戦略の実際、3)仕事としての戦略分析等、応用編の話題にも理解し易い形で触れることにしたい。	
世界の宗教文化	神話や宗教は、文化資源として絵画や音楽など人間の創造的な営みに大きな影響を及ぼしてきた。現代でも映画やマンガ、ゲームなどのなかにも、神話や宗教の影響を受けたものは多い。また、社会の多文化化がすすむなかで、日常生活のなかでも海外の宗教文化に触れたり、日本の宗教文化について考えたりする機会が増えてきている。この授業では、まず世界の主要な神話や宗教について基本的な知識を得る。その上でこれらの宗教文化の学びが国際社会で生かされる場面を考え、学んでいく。		
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目	2 0 0	
	国際企業法	会社という企業組織の形態は現代の経済活動にとって必要不可欠な仕組みである一方、その関係者間に利害対立をもたらす。経済学で「エイジェンシー問題」と呼ばれる問題である。会社法の目的は会社を取り巻く利害関係者間に生じるエイジェンシー問題を解決するための仕組みを提供することにあるが、その具体的な仕組みは各国・地域の会社法ごとに様々である。この授業では、比較法的・機能的な観点からこれらの仕組みの共通点と相違点を概説する。この授業の対象は日本の会社法に限られず、主要先進国の会社法を含むものとなる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	2 0 0	専 門 科 目	
	世界の貧困問題	「国連ミレニアム開発目標」を持ち出すまでもなく、貧困は21世紀に入ってもなお重要なグローバル・イシューとして存続している。発展途上国だけでなく、日本や他の先進国においてもワーキング・プアの増加など、貧困は身近な問題でもある。この授業では、ミクロな視点から見る貧困の実態とはやや距離を置き、社会科学が貧困問題をどのように捉えてきたか、そして問題解決に向けて社会科学に向けて社会科学にできるのかという点に焦点を当てる。グローバルな視点、普遍的・抽象的視点から貧困を見つめ直すことによって、個人が関心を寄せている具体的な貧困問題や社会的弱者の問題に新たな視座を持ち込めるようにしたい。同時に、「貧困」というキーワードを通じて、社会科学全般への理解を深めることも目的としている。	
	計量社会学	この授業では、計量社会学における社会の捉え方と数字を使った分析方法について学ぶ。特に社会意識、階層、家族、健康など社会学的テーマに関心をもってどのように社会調査を設計し、計量分析を行うことができるのか解説する。また、日本だけでなく海外での事例や実際の調査についても触れる。具体的なトピックには以下のものが含まれる：仮説、測定と尺度、サンプリング、コーディング、基礎統計量、エラーレーション、検定、相関、回帰。	
	中国社会の経済分析	中国は世界第2位の経済大国になったものの、中国人口の13%に相当する1億7千万人は経済発展の恩恵を十分に享受できず、未だに世界銀行が定めた貧困ライン（一日当たり1.25ドル）以下の所得で生活している。急速に拡大した貧富の格差は経済的弱者の不満を招き政治社会の安定を脅す一方、国内需要や人的資本の蓄積に負の影響を与えている。この授業では、中国の貧困問題と格差問題に注目し、これらの問題の原因やその深刻な影響などを多面的・多角的に議論する。	
	地域研究の手法	地域研究(Area Studies)は、経済学、国際政治学、人類学といった独立したディシプリンではなく、「他者(外国や異文化社会)理解」のためのひとつの研究手法であり、同時に国際社会で活動するために不可欠の手法であることを説明する。その上で、地域研究がもつ特徴と意義を、モノ(輸入食品)、現場(職場や生活の場)、企業活動の3つに分けて具体的に紹介する。さらに、海外調査の実践的な側面(フィールドノートの取り方など)を伝授する。最後に、グローバル化やネット情報社会の普及のもとで、地域研究が直面する問題点にも触れる。	
	アフリカ経済論	この授業では、最初にアフリカの経済に影響を与えている歴史的、地理的背景を学び、次にアフリカ経済における課題について詳しく学んでいく。具体的なテーマとしてはアフリカの植民地制度や奴隷制度とそれらの現在までの影響、アフリカの地域別の特色、独立後の政治・政策と紛争の歴史、これまでのアフリカの経済成長の阻害要因、累積債務と構造調整政策、最近の経済成長と中国の影響、貿易と世界との関係、農業と土地保有、貧困と不平等、人的資本投資、インフォーマル経済等である。説明では経済理論や簡単な回帰分析結果なども活用する。	
	国際貿易論	国際標準的な国際貿易論を授業。国際貿易の歴史と現在の貿易構造を概観した後、貿易が社会にとってどうして役に立つのか、リカードモデルやヘクシャー・オーリンモデルといった基礎的な理論枠組みを通じて理解し、その後、新貿易理論や多国籍企業、生産工程の分業化などについて学ぶ。また、戦略的貿易政策や経済地理学についても授業する。	
経済成長論	生産関数の基本を復習して、マクロ経済学における古典的なソロー型成長モデルを使用して成長理論の基本を学習する。その上で、成長の重要な要因となる生産性に関して、その計測方法、その決定要因を当該分野における代表的な文献を通じて学習する。生産性の決定要因に関する学習に際して、実証分析の結果を理解するために必要となる最低限の計量経済学の知識に関して、授業で解説を行う。各国経済の実際のデータを使用した分析を紹介しながら、分析手法を修得する。また、課題分析に必要なデータの入手方法についても解説する。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	2 0 0  国際金融論	この授業は国際金融の基礎コースである。この授業では国際金融に関わる諸問題を理解するための基本的知識の修得を目指し、この授業の履修を通じて国際金融についての新聞記事等を主体的に読むことができるようになることを目標とする。授業では特に国際金融の仕組みと制度的枠組みに重点を置く。取り扱うテーマは、外国為替相場、外国為替市場、国際収支、国際通貨制度などである。授業は講義形式で行う。指定教科書に基づいて授業するが、適宜新聞記事や関連するトピックのデータを紹介する。	
	経済政策論	日本政府が現実に取り組んでいる政策を一つひとつ具体的に上げる。それによって経済政策の中身を知るだけでなく、日本経済やグローバル経済をより深く理解することになるだろう。上げる政策としては、財政・金融政策のようなマクロ経済政策、規制緩和や税制のようなミクロレベルでの政策、そして為替政策や通商政策のような国際経済関連の政策も取り上げる。	
	組織行動論	ミクロ（個人）の側面から、企業の「人」の問題へのアプローチである「組織行動論」は、実証的なアメリカの組織心理学、行動科学研究をベースとして発展し、組織の中での人間行動の解明を通して、組織全体の効率を向上させることを主な目的とする研究分野である。特に、この授業では、(1) パーソナリティと価値観、(2) 個人と組織（組織社会化）、(3) チームと組織、及び(4) 組織文化と国際比較などのテーマを中心に、基礎的な理論の説明とともに、さまざまな組織における実際の具体例を紹介する。	
	国際会計論	この授業では、国際財務報告基準IFRSに基づく財務会計について学習する。多国籍企業の実際の財務報告書について学ぶとともに、欧米及びアジア、日本におけるIFRSの現状を紹介し、日本の会計基準とIFRSがどのように異なるのか、それは両者が持つどのような考え方から生まれた違いなのかを学習する。IFRSにおける財務諸表の構成、資産・負債の認識と評価、収益認識、利益（純利益、包括利益及びその他の包括利益）の諸概念と認識・測定について、そうした考え方の違いがどのように影響を与えているのかを理解し、IFRSについて体系的な知識を身につける。	
	マーケティングと消費者行動	インターネット上で日常的に展開される消費者同士のコミュニケーションや、消費者による情報収集などが、今日のマーケティングに大きな影響を与えるようになっており、グローバル企業はさまざまなデジタル・マーケティングを研究しながら実践している。この授業では今日の消費者行動の基本を学んだ上で、特にインターネット上で活発に展開される消費者間のコミュニケーションや影響伝播の実態を理解する。その上で、このような今日の消費者行動を前提とした上で、グローバル企業や組織が実践するデジタル・マーケティングによる対応について、幅広い観点から議論を行う。	
	ゲーム理論	国際社会は複雑な人間関係からなっているとみなすこともできる。複雑な関係を理解する上で、欠かせないのが、必要最小限の要素に絞って、現実を客観的に分析することである。ゲーム理論はそのためのツールである。この授業では、ツールとしてゲーム理論を使えるように、その手法を学ぶ。基本的な概念や、分析方法を例を通して学ぶことで、ゲーム理論を使えるようにする。	
	Law and Economics	Since the early 1960s, economics has been an important and internationally-common analytical tool for those who want to understand the effect legal rules have on the way people behave. This course provides a systematic economic analysis of core areas of private law: property, torts and contracts. The course is aimed at a general audience of students. No economic background is needed to take the course.  1960年代初めから経済学は法的ルールが人々の行動にもたらす影響を理解するための重要な国際的に共通する分析ツールとなってきた。この授業では、私法の基礎的な分野(物権法、不法行為法、契約法)について体系的な経済分析を行う。この授業は専門の如何を問わず学生一般を受講対象とし、この授業を受講するにあたって経済学の予備知識は必要としない。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	2 0 0 専 門 科 目	<p>Sustainable Development</p> <p>The idea of sustainable development forms a staple part of most debates about environment and development. The pursuit of sustainable development is now stated as a principal policy goal of many of the major institutions of the world including the United Nations and the World Bank. As an introduction to sustainable development, this course focuses on tracing the origins of the idea and its varied meanings as well as on considering the contemporary global challenges of sustainable development. Through this course, students are also expected to get familiar gradually with an undergraduate-level social science textbook used in English-speaking countries.</p> <p>持続可能な開発という考えは環境と開発に関する議論の根幹を成しており、持続可能な開発を目指すことが今や世界の多くの主要機関（国連、世界銀行等）の重要な政策目標となっている。入門編としてのこの授業は、この用語の起源と様々に変化してきた意味をたどること、及び持続可能な開発を目指す上でグローバル社会が直面している今日的課題を考えることに主眼を置く。また、この授業を通じて、（いわゆる外国人向けに書かれた英文テキストではなく）英語圏で使用されている学部レベルの社会科学の教科書に徐々に親しむことも期待される。</p>	
		<p>Sociology of Population</p> <p>This class provides an overview of sociology of population. Specifically, students will learn how to analyze society and social change through fertility, mortality, migration, and other related population processes. Special focus will be placed on family and fertility, health and mortality, and urbanization and international migration. We will also cover sociological perspectives on population, including life-course perspective, socialization, modernization, gender, and aging. Historical as well as international trends on population will be also considered.</p> <p>この授業では、人口社会学の概要を紹介する。具体的には、出生、死亡、移動とこれらに関連した人口プロセスから、社会のあり方と変化について学ぶ。特にこの授業では、家族と出生、健康と死亡、都市化と移民についてフォーカスする。また、ライフコース、社会化、近代化、ジェンダー、エイジングなど人口の社会学的分析視座についてもカバーする。さらに、人口の歴史的・国際的傾向についても言及する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	2 0 0 専 門 科 目	<p>China is today a transitional economy; that is, it is an economy in transition from planned socialism to capitalism. The modern Chinese economy has many unique characteristics that differentiate it from other economic systems. What is the “socialist market economy with Chinese characteristics” advocated by the Chinese government? How does China successfully make the two traditionally opposite economic forms work well together? Can China’s economic reforms and growth be repeated in other developing economies? How does the globalization of Chinese economy affect the world economy and Japan? This course will provide an overview of diverse backgrounds of Chinese economy and guide students to use economic tools to explore, understand and analyze the dynamic transformation of Chinese economy and society.</p> <p>社会主義経済から市場経済へ移行しつつある現代中国経済は多くのユニークな特徴を持つ。中国政府の標榜する「中国の特色を持つ社会主義市場経済」とは一体何なのか？中国はどうやって相反する二つの経済体制を両立できたのか？中国の改革は旧ソ連・東欧諸国の改革とどう違うのか？中国経済のグローバル化が世界や日本に与える影響は何なのか？躍進する中国をどう捉えるか？この授業では、社会主義と新古典経済学の経済理論を学びながら上述の問題を議論する。</p>	
	Modern Chinese Economy	<p>Emerging Asian countries, including China and India, have become the most important driving forces for the world economy. As a result, many arguments have focused the rapid growth of these countries, but they have hardly touched on increasing social problems. This lecture provides four different pictures of emerging Asian economies: Factory Asia (production networks, regional economic integration etc.), Consumer Asia, Aging Asia, and Exhausted Asia (economic inequalities, stress society). Students are requested to debate each issue in reference to the desirable new role of Japan in this area.</p> <p>この授業の目的は、アジア経済論入門を前提としながら、新興アジア経済（中国、インドを含む）を、「生産するアジア」「消費するアジア」「老いてゆくアジア」「疲弊するアジア」という4つの切り口から把握する。そして、それぞれの切り口において、生産ネットワークの構築、都市中間層の台頭、少子高齢化社会の到来、経済的不平等の拡大とストレスの増加といった問題を理解すると同時に、こうした問題を日本の現状と比較しつつ、今後どのように対応していけばよいのか。そうした政策課題を英語によって議論する能力の向上を目指す。</p>	
	Emerging Asian Economy and Society	<p>This course is an introductory course on the theories and empirical studies in development economics. The topics covered in the course are theories of economic development, poverty and inequality, population growth and development, urbanization and rural-urban migration, human capital, agriculture and rural development, development policy making, trade and development, financial and fiscal policies, and foreign finance, investment and aid. The course uses one of the popular textbooks on development economics written by scholars in English.</p> <p>この授業は開発経済学の理論と実証についての導入的な授業である。具体的なテーマとしては、経済発展の理論、貧困と不平等、人口増加と経済成長、都市化と農村都市間の人口移動、人的資本（教育と保健）、農業改革と農村開発、環境と持続可能な発展、開発政策立案と市場・政府・市民社会の役割、国際貿易理論と開発戦略、海外の融資・投資・援助、財務政策と財政政策などについて説明する。欧米では一般的な教科書を使用するが、学生の英語力も考慮して、具体的な事例やグラフなどを活用しながらなるべく噛み砕いて説明する。</p>	
Economic Development			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	2 0 0 専 門 科 目	<p>To understand an English textbook on the Globalised world economy written by economist. Students are to read through the relevant part of the textbook before coming to each lecture with the minimum understanding of 60 percent of its contents. In lectures, lectures are to slowly explain the contents with emphasis on key words and concepts. The lecture contents are subject to be shortened depending on the level of understanding of students and the time constraint.</p> <p>グローバル経済の概要と諸問題に関する英文教科書を理解する。学生は教科書に事前に目を通し、辞書などを利用して、最低限でも内容の6割を把握して授業に臨む。授業では、教科書の内容につき、担当教員がゆっくりと重要単語を繰り返しつつ解説する。授業計画・学習内容は学生の知識に応じて適宜変更する。</p>	
		<p>The aim of the course is to provide an overview of productivity and efficiency analysis using standard micro economic theory. In order to estimate the productivity and efficiency, students are required to study the micro economic theory on production function and consumption function. In addition, students are required to acquire the basic knowledge on econometrics, and to estimate TFP and efficiency by using actual data. More specifically, students are asked to estimate TFP by using the Japanese Industry Productivity database and statistical software such as Eviews. This course provides the basic analytical framework for understanding the difference of economic developments across countries.</p> <p>全要素生産性の定義、生産性の計測方法を学習する。学習に際して必要となる生産関数等経済学の知識、実証分析において必要となる最低限の計量経済学の知識に関しても、授業で解説を行い、実際のデータも使用した分析も行いながら、分析手法を修得する。実際の計測方法を理解するために、エクセルおよび計量経済ソフトであるEviewsにより、日本の産業別データ（日本産業生産性（JIP）データベース）のデータを利用し、指数法による生産性の計算、生産関数の推計に基づく生産性の計測を学習する。この授業は国際間の経済成長の差異を理解する分析上の基礎を提供する。</p>	
		<p>This course discusses undergraduate-level standard theory of international finance. The course objective is to equip students with a theoretical framework to analyze issues of international finance. Topics include theory of exchange rate determination, balance of payments, purchasing power parity, and the Mundell-Fleming model. Given the topics, this course uses a certain level of mathematics, which is explained in class if necessary. The class introduces not only theory but also related data and newspaper articles. Although the main part of the course is lectures, problem solving is also incorporated in tutorials, where students are expected to participate in discussions and present their work.</p> <p>学部標準レベルの国際金融の基礎理論を授業する。この授業では国際金融の諸問題を分析するための理論的枠組みを修得することを目標とする。取り扱うテーマは、為替レートの決定理論、国際収支、購買力平価、マンデル＝フレミング・モデルなどである。授業内容の性格上、一定程度の数学を用いることになるが、適宜授業で解説する。また、授業では理論だけでなく、関連するデータや経済記事等にも言及する。授業は基本的に講義形式で進めるが、問題演習を組み合わせる学生による発言や解答発表も重視する。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	2 0 0	専 門 科 目	
	Japanese Economy	<p>This course covers various topics on the Japanese economy. Lectures will be provided in Japanese, but English terminologies will be provided at the same time so that students are given opportunities to have better access to English materials. In this lecture various topics such as macroeconomic issues, international economic issues, energy and deregulation policies, that is both macro and micro subjects, will be discussed. The main purpose of this course is to provide introductory survey of the Japanese economy, but it also provides students opportunities to have access to economic analysis.</p> <p>日本経済論全般について包括的な授業を行う。授業は日本語で行うが、英文での経済問題の文献を読む準備となるように、英語での経済用語を修得する機会ともしてもらおう。日本経済の様々な側面について、マクロ経済問題から国際経済問題まで、エネルギー問題から規制緩和まで、マクロからミクロまで多様な問題を取り上げる予定である。授業は日本経済について解説するのが主たる目的であるが、同時にそれを通じて経済学的な考え方や分析手法にも触れる予定である。</p>	
	Cross-Cultural Organizational Behavior	<p>In an age where organizations straddle and traverse national boundaries with considerable ease, future managers aspiring to work in the international arena need to familiarize themselves with the international dimensions of management disciplines such as organizational behavior. This course seeks to expose students to a broader, global perspective on organizational behavior and business management. The course is composed of three topics: (a) organizations and culture (communication and motivation), (b) global leadership, and (c) team diversity in a multicultural environment.</p> <p>企業が国境をまたいで経営活動を行う、いわゆるグローバル時代の次世代経営者は組織行動論のような経営学分野における国際的な次元をよく理解する必要がある。この授業では、組織行動及び経営管理におけるより幅広い国際的な観点を提供する。具体的に、(1) 組織と文化 (コミュニケーションと動機づけ)、(2) グローバル・リーダーシップ、及び(3) 多国籍企業におけるチームのダイバーシティなどのテーマを中心に、基礎的な理論の説明とともに、さまざまな組織における実際の具体例を紹介する。</p>	
Financial Accounting	<p>In this class, the major concepts of financial accounting are introduced based on a case study approach. After a general presentation of the four financial statements, specific measurement issues concerning assets and liabilities will be studied. In this class, we will study the particular features of financial statements based on case studies like Pepsico, Toyota, Kering, Huawei, Volkswagen, LVMH, Apple, Amazon, H&amp;M, Roche, Rakuten, ArcelorMittal, Unilever etc. Cross-sectional analysis and time series will also be used to introduce basic techniques in financial statement analysis.</p> <p>この授業では、ケーススタディーを通じて財務会計の基礎概念について学習する。財務諸表の全体的な紹介の後、資産や負債の測定問題について学習を進める。具体的には、ペプシコ、トヨタ、ケリング、ファークヴェイ、フォルクスワーゲン、モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン、アップル、アマゾン、H&amp;M、ロシュ、楽天、アルセロール・ミットル、ユニリーバ等のケーススタディーに基づき、各企業それぞれの財務諸表の特徴について勉強する。また、企業間比較や時系列データ等を使用し、財務諸表分析の基礎知識を実践的に学習する。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目  2 0 0	<p>In this course you will learn the overview of global marketing strategy and the theoretical backgrounds of each strategy. We will discuss market segmentation, product lifecycle and customer's profile theory, technology lifecycle, B to B marketing strategy, brand management, media management and marketing communication, and how to manage distribution channels. The goal of this course is to understand the theories and implementations of marketing.</p> <p>グローバル・マーケティング戦略の概要を学びつつ、各戦略ルールの基盤となっている諸理論についても理解を深める。市場セグメンテーションの軸となる各変数、プロダクトライフサイクルと採用者プロフィール、テクノロジー・ライフサイクル、B to Bマーケティング、ブランド・マネジメント、マーケティング・コミュニケーションとメディア対応、チャネル・マネジメントなどの領域において、理論と実践について理解することを目的とする。</p>	
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目  3 0 0	<p>The principles and concepts of corporate finance are essential to understanding modern international corporate transactions and structuring them in ways that achieve particular business objectives. This course examines legal, economic and policy aspects of corporate finance transactions. The course is based on a business school textbook and involves some manageable numerical analysis. It is therefore important that students enrolling in this course are comfortable working with numbers.</p> <p>コーポレートファイナンスの原則と概念は、現代の国際的な企業取引を理解し、特定のビジネス上の目的を達成する方法でそれらの取引を組成するために不可欠のものである。この授業では、コーポレートファイナンス取引の法的・経済的・政策的側面を検討する。この授業では、ビジネススクールのテキストを用い、簡単な数量的分析を行う。したがって、この授業の学生は数字への抵抗がないことが必要である。</p>	
	Case Study Methods	<p>Although case studies are frequently used to analyze a variety of issues in real settings, they are not necessarily understood properly as a research approach. This course provides basic strategies of the research approach with students who plan to use case study methods for their graduation theses and/or who want to apply the methods to a wide range of academic and professional research activities after graduation. Students are expected to do brief exercises and read research papers adopting case study methods, which will help students understand key points of lectures more deeply. In the latter half of the course, students will have an opportunity to actually design and practice some of the learned case study methods in groups.</p> <p>ケーススタディ（事例研究）は現実社会の多様な問題を分析する方法として多用されているが、研究方法として必ずしも正しく理解されていない。この授業では、研究方法としてケーススタディを用いる上での基本戦略を紹介する。ケーススタディを卒業論文に用いようとして計画している、あるいは卒業後の様々な学術及び実務上の調査・研究に応用したいと考える学生を対象とする。授業の重要ポイントをより深く理解できるように、小演習を適宜組み入れ、また、ケーススタディを実際に用いた研究論文の考察も行なう。後半の授業では、学生のグループワークとして、実際にケーススタディを設計し、可能な範囲で実践する機会を設けたい。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	3 0 0  専 門 科 目	<p>International Migration</p> <p>This class aims to familiarize students with the history, theories, data, and policies regarding international migration. Using Castles et al. (2013), "The Age of Migration" and other sociological studies of international migration, Weeks 1 through 12 will focus on various issues in international migration. Topics will include theories of international migration, social, economic, political, and cultural integration of immigrants, transnational migration, and policy debates. In Weeks 13 and 14, students will present immigration policies of a country of their choosing and compare and contrast challenges of immigrant-receiving societies. Through this class, students will be able to understand why international migration occurs, how immigrants transform societies, and the reaction of host countries.</p> <p>この授業では、人の国際移動に関する歴史・理論・データ・政策など基礎知識を獲得することを目的とする。第1-12週ではCastles et al. (2013) "The Age of Migration" をもとに、国際人口移動の理論、移民の社会的・政治的・経済的・文化的統合、トランスナショナリズム、各国の移民政策など社会学を中心とした移民研究から国際人口移動の現状とその帰結を学ぶ。第13-14週では、クラス・プロジェクトとして、学生が選んだ各国の移民政策とその課題を比較分析する。この授業を通して、国際人口移動が起きる理由、人の国際移動が社会にもたらす変化および各国の対応を理解することができる。</p>	
	<p>China's Economic Sustainability and Social Issues</p> <p>China's fast economic growth has been slowing down under the influence of the global financial crisis and recession. The Chinese government took a series of stimulus measures to prevent a further slowdown of the economy. However, these measures are not able to solve the fundamental problems facing China. Besides the deep rooted structural problems, various environmental and social problems are casting serious doubts on the sustainability of Chinese economy. This course will provide detailed discussion on various economic and social issues, including structural economic issues, environmental and natural resource problems, inequality problems, social security issues and so forth. Students will be guided to explore these problems to develop a better understanding of China's economic sustainability.</p> <p>金融危機に伴う世界経済の不況を背景に、中国経済は減速傾向が強まっている。中国政府は一連の景気刺激策を打ち出したが、これらの対策は中国経済が抱えている問題の根本的な解決に至らない。顕著化しつつある構造的な経済問題に加え、急速な経済成長による環境悪化、資源不足、社会保障政策の不備、社会格差、汚職腐敗問題など、様々な問題が中国経済の持続性に懸念をもたらしている。この授業では、中国経済が直面する深刻な経済・社会問題を詳細に議論しながら、中国経済の持続性を探求していく。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	3 0 0  専 門 科 目	<p>Politics and Economy in Southeast Asia</p> <p>Southeast Asia or ASEAN countries are one of the most important areas for contemporary Japan. Lectures provide five major characteristics shared by ASEAN countries: colonial regimes, Japan's occupation and political independence, developmental regime, democratization, and trial of welfare society. Furthermore, particular topics are selected in each country such as Thailand (monarchy and democracy, NAIC economy), Malaysia (multi-ethnicity state, the middle-income trap), and Indonesia (the curse of resources). The birth of the ASEAN Economic Community or AEC and the rise of new members of ASEAN (CLMV) are also discussed in lectures.</p> <p>東南アジア諸国が多様性にみちた世界であることを伝えた上で、共通の要因として植民地経済体制、日本の占領と政治的独立、開発体制、民主化の動き、福祉国家の試みの5つを取り上げる。その上で、政治面ではタイ(王制と民主主義)、マレーシア(多民族国家の政治)、フィリピン(エリートと大衆の対立)の事例を、経済面ではタイ(NAIC型)、マレーシア(中所得の罫)、インドネシア(資源の呪い)を取り上げ、東アジアのフロンティアであるカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム(CLMV)と、2015年に発足するAECも取り上げる。</p>	
		<p>Education and Economic Development in Africa</p> <p>This course provides an introductory survey of the links between education and economic development. Topics covered in the course are average years of schooling and investment in education, issues in adult literacy, the factors that influence access to primary and secondary education, higher education and its impacts on economic development, inequities in educational outcomes on the basis of income/gender/race/ethnicity, the impact of structural adjustment on education spending, demand for education and the returns to schooling, cost of education, issues in quality of education, decentralization and school choice. Case studies are used to explain the topics.</p> <p>この授業では教育がアフリカの経済発展にどう影響するかを詳しく考える授業である。具体的には、アフリカの平均教育年数と教育への投資、識字教育の課題、初等中等教育拡大に影響を与える要因、高等教育とそれが経済発展に与える影響、所得・ジェンダー・人種・民族の違いによる教育格差、構造調整政策と教育財政、教育需要と教育の収益率、教育のコスト、教育の質における課題、教育の地方分権と学校選択制など、アフリカの教育政策における様々な課題を教育経済学的な観点から、具体的な事例も紹介しながら議論する。</p>	
		<p>Current Economic Issues in the Global Economy</p> <p>Discuss issues such as trade dispute settlement at the World Trade Organization, preferential trade agreement, which is currently hotly debated in Japan, and Euro problem. The lecturer also explains relatively recent topics in international trade, such as the heterogeneous firms trade model, and the supply chain and value-added.</p> <p>世界貿易機関における紛争解決や近年日本でも注目を浴びている自由貿易協定、ユーロ問題などについて議論し、更には企業に着目した国際貿易論、サプライチェーンや付加価値貿易など、国際経済学における比較的最新のトピックについて授業・議論する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	3 0 0 専 門 科 目	<p>The aim of the class is to understand the impact of globalization on the economic growth and income distribution by using the standard economic analysis. Several aspects of the economic impacts of globalization will be analyzed and discussed in the class. Major themes covered in the class are international productivity comparison, international technology spillover and catching-up mechanism, international competition and resource allocation, the effects of ODA on economic development and the impact of globalization on the domestic labor market. The subject matter of each day will be lectured in the first 50 minutes, then the students will be asked to discuss this and related issues. The necessary material and data for the discussion is provided in the previous lecture.</p> <p>グローバル化と経済発展の関係について、主に全要素生産性に与える影響の観点から議論する。国際間での生産性の比較、企業の生産性のキャッチアップや国際間の技術移転のメカニズム、国際的な競争環境と資源配分の関係、ODAやインフラ投資が経済発展に与える影響とその資金調達方法、企業の国際化が労働市場に与える影響を出来るだけ最近出版された論文を利用して、先端的な分析方法等を学習し、その内容をクラス内で議論する。また、課題分析に必要となるデータの入手方法についても解説する。</p>	
	Globalization, Economic Growth and Income Distribution	<p>This course discusses policy and topics in international finance, using the theory studied in "International Finance: Theory". This course aims to enable students to analyze real-world issues of international finance through a theoretical framework. Topics include international monetary policy cooperation, exchange rate regimes, optimum currency areas, and currency crises. This course consists of lectures based on the textbook and discussions on related articles written in English. As for discussions, students are required to read the assigned material in advance and actively participate.</p> <p>この授業では「国際金融の理論」で修得した理論を用いて、国際金融に関わる政策や各論について議論する。この授業の履修を通じて、理論的な枠組みを用いて現実における国際金融の問題を分析できるようになることを目標とする。取り扱うテーマは、国際金融政策協調、為替相場制度、最適通貨圏、通貨危機などである。授業は教科書の内容の講義と英語で書かれた関連文献についての討論を組み合わせる。討論に関しては、学生に指定文献の事前の熟読と議論への積極的な参加を求める。</p>	
	International Finance: Policy	<p>This course will provide lectures on the behavior of Japanese companies in the global economy and have some class discussions on case studies of Japanese companies. Knowledge of corporate behavior in the global economy will provide a better understanding of the global economy itself. Various topics will be discussed in this course such as foreign direct investments, case studies of individual companies, economic institutions such as economic partnership agreements and taxation system relating overseas corporate activities, exchange rate fluctuation and corporate response, and so on. In this course, various case study materials will be used for class discussion method.</p> <p>この授業では、グローバル経済の中での企業活動の様々な側面を学ぶ。国際経済の中での企業活動の姿を学ぶことで、グローバル経済についてより深い理解を得ることを目的とする。具体的なトピックスとしては、企業の海外直接投資のメカニズム、海外展開を行っている日本企業の様々なケーススタディー、経済連携協定や税制が企業活動に影響を及ぼす様々な国際経済の展開、為替レート変動の影響とそれへの対応などが含まれる。授業の中では個別企業のケースを資料として利用することで、クラスディスカッションなども行う。</p>	
International Business			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	3 0 0  専 門 科 目	<p>As companies and organizations become increasingly international, issues of national culture can often stand in the way of a seamless progression of HRM across national boundaries. From a cultural perspective, the course explores how cultural differences impact on patterns of HRM practices in different countries. Also, the course investigates how multinational organizations are managing their way through this complexity, making strategic choices in international HRM. The course is composed of three topics; (a) national culture theories, (b) comparative HRM theories and practices, and (c) global employee relations theory and practices (talent management).</p> <p>企業のグローバル化が進む中で、企業が国境を越えて人的資源管理施策を実施する上で、国民文化は妨げの要因となることが多い。この授業では、文化の観点から、多国籍企業の人的資源管理のパターンに影響を与える国民文化の違いについて考察する。また、このような複雑さに対して多国籍企業が取り組んでいる戦略的人的資源管理施策について理解を深める。この授業では、(1)国民文化に関する理論、(2)人的資源管理の理論と施策における多様な観点の比較、(3)多国籍企業における労使関係及びグローバル人材などのテーマを中心に、基礎的な理論の説明とともに、さまざまな多国籍企業における実際の具体例を紹介する。</p>	
	International Human Resource Management	<p>This course provides an overview of cost accounting techniques and theories. Starting with the purpose of cost accounting, it focuses on what kind of information is necessary for management planning and control. Then, after introducing the difference between fixed and variable costs, the course goes on with breakeven analysis based on concrete examples. Quantitative techniques used in stock assessment, standard costing, the allocation of indirect costs, and activity-based costing will also be introduced. Last, the role of budgeting in management planning, including Japanese-style target costing and kaizen costing will be introduced.</p> <p>この授業では、原価計算に関する基礎知識と技法について学習する。まず、原価計算の目的、および経営企画や経営管理において必要とされる情報内容について理解する。具体的には、固定費と変動費の相違を理解し、演習問題を通じて、損益分岐点を分析する技法や目標利益を達成する売上高を求める技法等を学習する。さらに、在庫の管理と評価の基礎知識を習得し、標準原価計算と間接費の配分、活動基準原価計算(ABC)、予算管理について学習を進める。また、カイゼンコストイングや原価企画等について学習し、日本的経営の特徴の一部を理解する。</p>	
	Cost Accounting	<p>To develop and execute strategies based on the traits of each market is essential in current international marketing. In this course, we learn the methods of current global marketing and the basis of strategy planning based on research data of each market. We also study the basis of consumer research in order to understand characteristics of consumers in each market, research design and data collection, various biases in multi-country research, predicting sales of global market, comparing consumer behavior between markets, and how to execute marketing according to the traits of each market.</p> <p>今日の国際マーケティングでは、各国の市場特性に基づく戦略の立案・実行が重要である。この授業では今日のマーケティング戦略の概要、リサーチとデータに基づく戦略立案の基礎を修得する。この手法の応用として、地域ごとの市場や消費者の特性を把握するためのリサーチの基礎、各国市場に関するリサーチ・デザインやデータ収集、これらを取り巻くバイアスなどの多国間リサーチにまつわる諸問題、グローバル市場における売上げ予測や消費者行動の比較などについて、データ分析と実践の両面から学ぶ。</p>	
Marketing Strategy and Consumer Research in International Markets			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	3 0 0  専 門 科 目	<p>Asian Business Law</p> <p>Goods and services are traded across borders and people move between borders. Laws are stipulated by nations, and multi-lateral and bilateral treaties exist between multiple countries, mixed like spaghetti in a bowl. Each country faces and has to prioritize different tasks and issues. Different levels of economic development exist in different countries, and specific values, including religious values, are embedded into the rules and regulations of different societies. In the Asia region, each country has a different background in terms of history, social and economic institutions, religion, and level of economic development, while at the same time becoming more integrated from the perspective of economic activity. Economic activities of enterprises are rarely conducted purely inside only one country, they are often exposed to cross-border elements. With such a background, we would like to talk about legislation policies of different countries, and legal strategies used by enterprises to survive and navigate in a more and more integrated world.</p> <p>物、サービスが国境を超え、人も移動している。国毎に法律があり、二国間及び多国間の条約も張り巡らされている。国毎に直面する課題やその優先順位は異なり、経済発展の段階も異なる。宗教その他の価値観はルールにも反映される。アジア地域においても、それぞれの国は、歴史、社会・経済制度、宗教、経済の発展段階が異なるが、他方で経済的な地域統合が進められている。企業の経済活動も各国内で完結することは非常に少なくなり、あらゆる局面でクロスボーダーの要素に直面している。そのような時代における、国としての法政策や、企業の視点からの法務戦略なども取り扱う予定である。</p>	
	International Comparison of Law and Society	<p>We are accustomed to seeing structures of government organizations being classified into three powers --- legislative, administrative or executive, and judicial --- and allocated into three separate branches, each monitoring and checking the other two so that the others may not become absolute and each coordinating with the others so that all powers are balanced. Yet, this separation and check-and-balance theory only emerged in modern times. Historically, lawmakers may have governed the process but did not dominate the meaning of law. There are various factors which influenced the evolution of laws and legal systems, among which education of jurists, formation of legal professionals, and circulation of legal ideas and models are essential. Our analysis will be based upon case studies of different laws and legal systems. The course will be co-taught by two instructors.</p> <p>統治機構の権限を立法、行政（執行）、司法に分類しそれぞれの権能を異なる機関が担い、絶対的な権力機構とならないよう相互に監視・抑制することで権力相互の均衡を実現するという統治の形態は、近代社会の特徴である。歴史上、法は立法者の制定した規則ではなかった事例が多い。現在においても、立法者は立法過程を支配するとしても、法を支配しているとは言えない。法の進化に影響を与えるものに、法律家の教育および法モデルの流通がある。この問題を突き止めてから、世界の主な法モデルの特徴に触れて、若干の事例を比較法のもとで分析する。担当者は二人であるが、分担ではなく、共同授業の予定である。</p>	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目  3 0 0	<p>International Trade Law</p> <p>This course provides an overview of laws and rules that govern the international trade, recently often referred to as transnational commercial law, from the perspective of businesspersons. In particular, we will discuss some topics regarding laws on international sale of goods, carriage of goods by sea as well as air, international payment and settlement, distribution agreements, and resolution of conflicts through international litigation and arbitration. Since these instruments are written in English, the class will be conducted in English. However, for Japanese students, books and articles written in Japanese will also be mentioned in the class.</p> <p>国際貿易に適用される法律（近年では、transnational commercial lawと言われることが多い）のルールについて、ビジネスパーソンの視点を重視して解説する。具体的には、物品（商品）の売買、海上・航空運送、代金決済、現地販売店との契約、トラブルが発生した場合の紛争解決（仲裁、国際訴訟など）などに関する国際条約や国際的に使用されている契約条件を紹介する。国際条約や国際契約は英文で書かれているので、それらを参照し、授業も英語で行うが、日本人の学生のためには、日本語の解説書などを紹介する。</p>	
		<p>Game Theory and Negotiation</p> <p>Negotiating well is one of the most important skills that we need in the international society. This lecture studies the rational aspect of negotiation by applying game theory. Through this lecture, the students are expected to learn how to view negotiation in an objective perspective and to approach it in a prepared manner. For each topic, the students are asked to conduct mock negotiation, through which they experience the principle of negotiation at first hand.</p> <p>交渉力は国際社会で必要とされる最も重要な技能の一つである。この授業では、交渉の合理的な側面についてゲーム理論を応用して学ぶ。この授業を通して、学生は交渉を客観的に見ることでそれに準備を整えて臨むことができるようになることが期待されている。それぞれのトピックごとに、学生は交渉の練習を行い、どのような原理が交渉にはあるかを実際に学ぶ。</p>	
		<p>専門演習Ⅰ</p> <p>社会科学分野の論文を作成するために必要な実践的な知識を獲得し、最終的には簡単なレポートを作成する。演習ごとに設定されたテーマに基づき、現実の課題について調べ、その課題に対する解決策を導き出す。分析にあたっては、社会科学の手法により、それぞれの演習の専門性によりふさわしいアプローチを用いる。それまでに学習した理論や制度に関する知識を現実に応用し、複雑な現実を解き明かす力を身につけることを目指す。</p>	
		<p>専門演習Ⅱ</p> <p>社会科学分野の論文を作成するために必要な実践的な知識を獲得し、高い水準のレポートを作成する。作成したレポートは発表し、レポートの内容および発表の仕方について全体で討論し、そこでのコメントを反映してプレゼンテーションの力を養うとともに、高度な内容のレポートを作成する方法を学ぶ。</p>	
選 択 必 修 科 目	専 門 科 目  4 0 0	<p>卒業論文・卒業演習</p> <p>本学部で学習してきたことをベースに卒業論文を作成する。卒業論文は英語3,000語以上または日本語15,000字以上に加え、英語によるAbstract（要点）作成が必要となる。また、英語によるプレゼンテーション資料を同時に作成する。優秀論文およびプレゼンテーションは担当教員から推薦され、最も優れた論文およびプレゼンテーションは学部全体で選考され表彰される。論文では、社会科学の手法によるデータや資料を使用した仮説の検証と、課題解決が求められる。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	英 語 科 目	2 0 0	
	Theme-Based Discussions : The Economy	Students will learn how to lead and participate in discussions on topics related to the economy. They will develop their critical thinking skills, the ability to express their ideas clearly, and the ability to respond to what others say. They will use the reading, listening, and note-taking skills that they developed in the first year to prepare for and participate in classes.  経済に関する題材をトピックとしたディスカッションを通して、重要語句及びコンセプト、討論の主導方法を学ぶ。クリティカル・シンキング、意見の明確な表現、相手の意見に対する反応力を高める。スピーキングのみならず、リーディング、リスニング、ノート・テイキングスキルなど1年次に得たスキルを使い準備・参加することにより、ディスカッションの内容を深める。	
	Theme-Based Discussions : Law and Society	Students will learn how to lead and participate in discussions on topics related to law and how it functions in and affects society using key vocabulary and concepts. They will develop their critical thinking skills, the ability to express their ideas clearly, and the ability to respond to what others say. They will use the reading, listening, and note-taking skills that they developed in the first year to prepare for and participate in classes.  法律と法律の社会における影響と役割に関する題材をトピックとしたディスカッションを通して、重要語句及びコンセプト、討論の主導方法を学ぶ。クリティカル・シンキング、意見の明確な表現、相手の意見に対する反応力を高める。スピーキングのみならず、リーディング、リスニング、ノート・テイキングスキルなど1年次に得たスキルを使い準備・参加することにより、ディスカッションの内容を深める。	
	Theme-Based Discussions : Business	Students will learn how to lead and participate in discussions on various business topics using key vocabulary and concepts. They will develop their critical thinking skills, the ability to express their ideas clearly, and the ability to respond to what others say. They will use the reading, listening, and note-taking skills that they developed in the first year to prepare for and participate in classes.  ビジネスに関する題材をトピックとしたディスカッションを通して、重要語句及びコンセプト、討論の主導方法を学ぶ。クリティカル・シンキング、意見の明確な表現、相手の意見に対する反応力を高める。スピーキングのみならず、リーディング、リスニング、ノート・テイキングスキルなど1年次に得たスキルを使い準備・参加することにより、ディスカッションの内容を深める。	
	Theme-Based Discussions : International Relations	Students will learn how to lead and participate in discussions on topics related to international relations using key vocabulary and concepts. They will develop their critical thinking skills, the ability to express their ideas clearly, and the ability to respond to what others say. They will use the reading, listening, and note-taking skills that they developed in the first year to prepare for and participate in classes.  国際関係に関する題材をトピックとしたディスカッションを通して、重要語句及びコンセプト、討論の主導方法を学ぶ。クリティカル・シンキング、意見の明確な表現、相手の意見に対する反応力を高める。スピーキングのみならず、リーディング、リスニング、ノート・テイキングスキルなど1年次に得たスキルを使い準備・参加することにより、ディスカッションの内容を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	英 語 科 目	2 0 0	
	Group Project	<p>This class helps students acquire introductory level social science terminology and language in English, while learning how to use academic English skills, knowledge, and vocabulary involved in basic social studies research processes. The project topics and themes may include, but are not limited to: diversity, sustainable development, innovations, and information technologies. The students will gather data through field research, mainly by conducting surveys and interviews.</p> <p>この授業では、社会科学における基礎的なアカデミックスキル、知識、語彙を使いながら社会科学手法の調査に取り組み、社会科学分野で使われる基礎的な英単語や表現を学ぶ。研究テーマは多様性、持続可能な開発、イノベーション、ITテクノロジーなど。主にアンケートやインタビューを使ったフィールドリサーチを行う。</p>	
	Business Communication	<p>This is a practical English course that introduces students to some of the major forms of communication in a business environment, including, but not limited to: correspondence, requests for information, presentations, proposals, and reports. They will also have training in how to write resumes and prepare for job interviews. They will learn the relevant vocabulary and the procedures for preparation and delivery of these through role-plays, simulations, and case studies. Students will work in pairs and small groups using all four English language skills, further building on the language skills that they developed in their first-year foundation courses.</p> <p>この授業では、ビジネスの現場で円滑なコミュニケーションをとれるように、商用文・資料依頼書・プレゼンテーション・提案・報告などの様々なビジネスコミュニケーションの形式を学生に紹介する。また、英文履歴書を書く練習や、ロールプレイ・シミュレーション・ケーススタディーを通して英語面接の準備なども行う。この授業では、ペアやグループ学習を通じて1年次の基礎科目で養成した英語学習の4技能の更なる向上を図る。</p>	
Critical Reading	<p>This class helps students acquire knowledge and skills for critical reading, as necessary academic and intellectual tools to participate fully in social studies research communities worldwide. In particular, students will learn a set of critical viewpoints from which they can examine various types of materials (e.g., written, audio, and visual). They will understand the effects of social and economic activities from multiple critical perspectives and develop vocabulary and strategies for critically discussing theoretical and practical aspects of social studies issues.</p> <p>社会科学研究を行っていく上で不可欠な世界共通の知的ツールとして、クリティカル・リーディングのための知識とスキルを学ぶ。特に、この授業では、文献を批判的に読むために必要な考え方と視点を学び、それを使って様々な教材（文献、録音された講義、プレゼンテーションのビデオなど）を分析する。多角的に、批判的な視点から、社会及び経済活動がどのような影響をもたらすかを理解し、社会科学の理論と実践を議論するための語彙と方略を身につける。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	英 語 科 目	2 0 0	
	Advanced Academic Writing	<p>Students will develop their critical thinking and writing skills. They will use the research skills they developed in their first-year foundation courses to find, evaluate, make notes on, analyse, and write about a topic. Students will work in pairs and groups in activities such as brainstorming, outlining and peer editing as they proceed through the research and writing processes. The goal will be for students to become competent writers in English in the field of social sciences.</p> <p>この授業では、クリティカル・シンキングと高度なライティングのスキルを養成し、社会科学に関連する、論文を英語で作成することを目的とする。具体的には、基礎科目で培ったリサーチスキルを活用し、トピックの選択・ノート取り・分析・作文を行う。リサーチと作文の過程では、ペアやグループで、ブレインストーミング・概要文の作成・クラスメートと相互編集等を行い、論文を仕上げる。</p>	
	Oral Fluency	<p>The aim of the course is to refine the oral communication skills developed in English Communication I and II in the first year. The expanded use of authentic materials and collaborative tasks will provide challenges and opportunities for students to use all four skills at a higher level and expand their vocabulary. Using the content relevant to their academic interest, students will engage in communicative tasks and further develop their oral fluency.</p> <p>1年次に履修のEnglish Communication I and II で修得したコミュニケーションスキルを洗練させる。より多くのオーセンティックな専門科目と関連のある教材と協同学習を通し、さらに高い難度の内容に取り組むことにより4技能を連動させて使い、語彙のさらなる拡大を狙う。協同的なコミュニケーションタスクによって、Fluency(流暢さ)を養成する。</p>	
選 択 科 目	英 語 科 目	3 0 0	
	Area Studies	<p>This course will build upon the content and language skills acquired through successful completion of previous elective courses. Area studies courses will take an interdisciplinary approach; students will further develop their English language proficiency by studying the peoples, history, society, and culture of a designated region through the disciplines of economics, business, law, or political science. Students will also acquire an understanding of some of the problematic issues in studying "other" peoples or cultures in an international context. Successful completion of the course will equip students with a deeper understanding of the studied region and the language skills needed for more extended research and study. Students will complete a significant final paper, presentation, or other evidence of learning for public review.</p> <p>この授業は、他の選択授業で修得した英語力と知識を土台とし、特定地域の民族・歴史・社会・文化を経済・ビジネス・法律・政治などの分野から学際的にアプローチして学ぶことを通じ、英語運用力の強化を図る。また、国際社会の中で、民族や文化を「他者」として学ぶことに付随する課題について理解する。更に、今後の研究・学習に必要な地域の理解と英語運用力を身につける。学期末には、報告書やプレゼンテーションなど、学習成果のまとめを完成させる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 英語科目	300 Independent Studies	<p>This course is for students who have excelled in their previous coursework or otherwise shown significant mastery of language and content in international social studies. Students enrolled in this course will design a detailed personal learning plan and present this proposal for review. This plan should fall within the disciplines of economics, business, law, or political science; and, it should focus on one or more of the themes of globalization, diversity and mobility, sustainability, and media. The plan must show how English language use will be integral to the project. If accepted, the student will carry out the plan and review and evaluate learning and outcomes regularly. The student will complete a significant final paper, presentation, or other evidence of language proficiency and subject area mastery for public review.</p> <p>この授業は、他の授業で優れた成果を挙げた学生や、国際社会学や語学に精通した学生のための授業である。授業では、経済・ビジネス・法律・政治分野に関する、グローバル化・多様性・流動性・サステナビリティ・メディアなどのテーマに焦点を当て学習計画を立案し、提案を教師に報告する。また、学習計画には、プロジェクトにとっての英語の必要性を明記する。計画が承認されれば、学生はプロジェクトの実行、分析、評価を行う。学期末には、報告書やプレゼンテーションなど、研究成果のまとめを完成させる。</p>	
選択科目 総合基礎科目	100 哲学	<p>古代から現代に至る西洋哲学を3つのタイプに分け、それぞれの間いと考え方を辿り、哲学について理解を深める授業である。過去の哲学者たちの思索を共有することを通じ、ものごとを根本的に考えることを目的とする。具体的には、「真に存在するものは何か」を問う存在論的哲学、「私は何を知り得るのか」を問う意識論的哲学、「言語によって私は何を理解しているのか」を探究する言語論的哲学を中心に哲学の展開を追跡する。</p>	
	美とロゴス	<p>大きなテーマを一つ設定した上で、それぞれの教員が、哲学思想史と美学美術史という二つの分野の専門知識と方法を十分に活かして、多角的な考察を加える。各教員が研究している時代や地域の美のあり方、あるいはロゴス(言葉、論理、説明)のあり方を踏まえ、具体的な問題設定のもとで、各様にこれを論じていく。これによって学生は、専門のいかんを問わず、大きなテーマについてただ漠然と考えるのではなく、それを特定の方法で具体的に考察することの面白さと、重要性についても学ぶことになる。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)                      (全教員/7回)「ガイダンス」、「理解度の確認」、「コンクルージョン」、「自主研究」                      (48佐野みどり/1回)「山水の力」                      (46荒川正明/1回)「日本の工芸品にみられる自然観」                      (49島尾新/1回)「作られた『自然』—山水画・庭園・盆假山—」                      (52松波直弘/1回)「〈あるがまま〉の思想」                      (51小島和男/1回)「古代ギリシアにおける自然(ピュシス)と人間」                      (45下川潔/1回)「イギリス哲学と人間本性」                      (50杉山直樹/1回)「自然とのつきあい方」                      (47酒井潔/1回)「近現代の西洋哲学と自然観」</p>	オムニバス
	論理学	<p>論理学は、古代ギリシアから体系的の研究が始まっているが、飛躍的な発展を遂げたのは、19世紀後半以降である。この授業では、ブールやフレイゲから始まる現代論理学の基礎的な部分を取り上げる。私たちは、日常生活から学問上の事柄にいたるまで、様々な論証を行っているが、そうした論証の中で働く「論理」をあらためて観察し、評価することが大切である。よって、授業では、実際に論証を作り、その正しさを検討するという作業を行う。それを通じて、論証の分析と評価を行うための体系的な手段を身につけることが目的となる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	1 0 0  西洋倫理学史	倫理学とは哲学を支える大きな柱であり、特に「善」や「価値」の問題を扱う学問である。授業ではこうした問題に取り組んだ西洋の哲学思想家たちを古代から順を追って紹介しつつ、西洋における倫理学の歴史を概観することを目的とする。この概観を通じ、「倫理」的な生き方、「倫理」的な行為といえども、そうした語が示す意味はかなり多様であり、歴史の変遷を経て現代に至ることについて理解を深める。「現代」の「日本」に生きている我々が「西洋」の現代倫理学だけでなく、その「歴史」を学ぶ意義についても眺望を得られるようにする。	
	東アジアと日本の倫理思想	この授業では、現代を生きる日本人として自らの倫理基盤を確立する手掛かりとして、東アジアの諸宗教とそれを背景とした倫理思想について考えていく。前期には東アジアの宗教思想から仏教と儒教を取り上げ、その基本的考え方と、現代の倫理的諸問題への応用の可能性について考える。後期には、神道とシンクレティズムの基本的考え方を紹介し、東アジアと日本の倫理的諸問題への適用の事例を検討することで、現代に生きる我々の倫理的諸問題にどのように役立つのか具体的に考える。	
	現代思想	この授業では、おもに19世紀から20世紀のヨーロッパの近現代を舞台にした、共同性をめぐる思想家の多様な問いかけを紹介する。具体的には、ナショナリズムの契機でもあり社会的な絆を構成する言語についての問い、言語の本質にかかわる証言の問い、生と死・人間と動物・男と女・市民と移民など「境界」についての問い、アイデンティティのアポリアとしてのユダヤ性の問い、戦争や暴力の傷をめぐる和解・赦しの可能性についての問い、ヨーロッパとその外部の関係をめぐる問いに触れることで、新たな共同性の可能性を考える。	
	科学の考え方	この授業では、どのような仕方で考えることが科学的に考えることになるのかを検討する。どんなに聡明な人であっても自分自身のことだけは第三者的に見るのが難しいように、どんなに科学が優れていても、科学そのものを第三者的に見るためには科学の外からの視点が必要になる。この授業には、科学的な知識は不要であり、「科学」のイメージを捨て、無知の目でもう一度「科学」を眺める姿勢が必要である。そうすれば、科学という営みが生意気で、しかし頼りないが魅力に溢れたものであることを実感することができるだろう。	
	思想史	この授業では、主に17世紀から現代までの英国、西欧、北米の思想を対象とし、近現代における倫理・法・政治の基本原理にかかわるものとして、人権の思想をとりあげ、近代における自然権思想の確立とその政治的背景から、現代権利論とその背景（人権の復活と国際化）までをカバーする。また、人間の本来の権利を武器にし、政治権力に対して人間の尊厳を擁護する近代西洋思想はいかにして成立・変容したのかについて、プロセスを学ぶ。さらに、「自然権」思想の起源、内容、意義を理解するために、それと対立する思想や自然法・自然権批判にも言及する。	
	応用倫理学	この授業では、現代に生きる私たちが今、どのような倫理的問題に直面しているのか、またそれらの問題にどのように対処したらよいのかを、具体的な事例にそくしながら批判的に考察する。そこでは「生命」「環境」「経済」「科学技術」「戦争」といった相互に分ち難く関係する諸領域を取り上げる。一連の考察を通じて、倫理的に思考する力を養うとともに、やがて自分たちが担うことになる時代と社会はどこへ向かうべきかを問い、探求することを目的とする。	
	中国の思想と文化	中国前近代社会の構造的特徴を踏まえた上で、中国で大きな流れとして鼎立した、儒教・道教・仏教の理論的展開と社会的機能を述べる。特に、理論の通時的変化に留意しつつ、三者の思想的中核をなす人間観・社会観における差異性と相同性、祭祀他の社会的機能における競合性と相補性について考察を加えるとともに、三者が権力・国家との関係での位置・機能についても言及する。また、明清時代に民衆に対して巨大な影響を振るい、今日なお大きな力を有する民間宗教（白蓮教・羅教）についても同様に理論と機能の面から述べる。更には、より広範な中国社会の習俗などとの関連でとらえる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	1 0 0	総合 基礎 科目	
	言語と文化	短い定形文のなかに「言語と文化」のエッセンスが凝縮されている「ことわざ」を主な対象として分析し、考察する。ことわざは、古くから民衆の暮らしのなかで重要な役割を果たしており、その世界は広大であるが、近代の学問研究からはほとんど無視されてきた。この授業では、日本語のことわざにかぎらず、外国語のことわざも視野に入れ、言語学や民俗学、比較文化など、さまざまな視点からことわざの世界を探索し、その特色や構造、論理、日常生活における役割などを明らかにしていく。	
	比較文学	ヨーロッパに於ける文学と音楽の関係を考察し、主に19世紀以降の西欧文化に対する幅広い理解を得ることを目的とする。具体的には、ドイツ、フランス、イギリスなどのロマン派文学がクラシック音楽に与えた影響、並びに、国民音楽派と民俗神話などとの関係に焦点をあてる。1例を挙げると、フィンランドの作曲家シベリウスの場合がある。シベリウスは叙事詩「カレワラ」に取材して名曲を書いた。ここには口承伝説とナショナリズム、そして音楽芸術との関係が鮮やかに見て取れる。授業ではこうした事例を適宜考察する。	
	舞台・映像芸術	映画史の概括と映画の技術的側面を学ぶことで、私たちの映像環境の基盤を形成した映画に対するリテラシーを総合的に高めることを目標とする。映画史の概括については、映画の黎明期から現代までの映画史を辿り、重要な映画作家・作品の紹介だけでなく、時代ごとに映画が直面した問題を取り上げることで、映画の発展を多角的に検討する。映画の技術的側面については、映画を分析的に見る能力を養うために、ショットやモンタージュなど映画製作・分析の基礎概念から映画の受容にいたる映画の様々な側面を検討する。	
	日本美術史	日本美術史入門の授業として、縄文時代から20世紀までを対象に、各時代の代表的な作品を紹介しながら、日本の美術の歴史を辿る。グローバルな視野を獲得するためには、自らがよって立つ基盤となる自国の文化への理解を深めることが重要であり、この授業では、日本美術の流れを把握するとともに、視覚的な造形としての特質や魅力を知り、美術を通じて日本の文化の特質を学ぶことができるように促していく。また、作品の基本的な見方を紹介し、日本美術を楽しんで鑑賞できるスキルを身につけることも目指す。	
	西洋美術史	現在、世界中に素晴らしい美術館が存在し、毎年、日本の国内外で多くの美術に関する展覧会が開かれている。それらの美術館や展覧会は、美術の歴史を知らずとも、楽しむことはできる。しかし、その作品が制作されたのはどんな時代だったのか、どんな場所だったのか、それらを制作したのはどんな人たちだったのか、また当時はどんな評価がされていたのかといった、作品の水面下に隠れている情報を知った時、同じ作品が、これまでとは違ったものに見えてくるような視点を養う。	
音楽史	この授業では、19世紀末から20世紀初頭の西洋音楽を素材として、音楽史の諸問題を考えてゆきたい。この時代の西洋音楽はもはや一部の国のみから説明することは困難である。すなわち、ドイツ、フランス、イタリアといった伝統的な「音楽の国」のみならず、イギリス、スペイン、ロシア、北欧、そしてアメリカにおいても重要な動向が見られる。また革新的な音楽が生まれる一方で、アイデンティティの拠り所としての「過去の音楽」へのまなざしもさかんになる。以上から「ナショナリズム」と「回顧主義」が主要テーマとなる。  (65山本成生/前期15回)「歴史からみる音楽の西洋と日本」 (66豊永聡美/後期15回)「日本音楽の歴史の変換の概観と各時代における特徴」	共同	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	1 0 0	総合 基礎 科目	オムニバス
	日本の伝統芸能	<p>日本のさまざまな伝統芸能の中から、雅楽、能、狂言、尺八、文楽、琵琶楽、歌舞伎、落語、講談を取り上げる。専門の研究者や、国内外の舞台の第一線で活躍している俳優・演奏家・脚本家といった方々を講師にむかえ、理論的解説や実技、演奏などをしていただく。各講師による熱心な解説、また目の当たりにする素晴らしい実演によって、難しいと敬遠されがちな伝統芸能の面白さ、楽しさ、素晴らしさを知り、より身近なものとして理解できるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)                      (67藤澤 茜/6回)「日本の伝統芸能—総論—」「予備日」「歌舞伎—理論—」「伝統芸能と現代社会」「理解度の確認」                      (86三田徳明/1回)「雅楽—理論と実技—」                      (87三田晴美/1回)「雅楽—理論と実技—」                      (77鈴木祥江/1回)「雅楽—理論と実技—」                      (84前田晴啓/1回)「能—理論と実技—」                      (68石川高/1回)「雅楽—実技—」                      (74亀井広忠/1回)「能—理論と実技—」                      (69石田幸雄/2回)「狂言—理論と実技—」                      (88森谷裕美子/2回)「文楽—理論—」                      (80豊澤龍爾/1回)「文楽—実技—」                      (81豊竹睦大夫/1回)「文楽—実技—」                      (72小濱明人/1回)「尺八—実技—」                      (76後藤幸浩/1回)「琵琶楽—実技—」                      (85水島結子/1回)「琵琶楽—実技—」                      (73片山旭星/1回)「琵琶楽—実技—」                      (79月岡祐紀子/1回)「警女の芸能—実技—」                      (70市川右之助/1回)「歌舞伎—実技—」                      (71今井豊茂/1回)「歌舞伎—理論—」                      (78田中傳左衛門/1回)「歌舞伎—実技—」                      (82中村亀鶴/1回)「歌舞伎—実技—」                      (83野澤松也/1回)「歌舞伎—実技—」                      (89柳家喬之助/1回)「落語—理論と実技—」                      (75神田阿久鯉/1回)「講談—理論と実技—」</p>	
	法学	<p>現実に発生する具体的な問題を通して、憲法の基本的な考え方を学ぶ。概念的な憲法ではなく、生きた問題点を通して、思考訓練をすることを目標とする。まずは、憲法の基本的な考え方を学び、続いて、人権を巡る諸問題を考察し、裁判員制度・選択的人工妊娠中絶・死刑制度といった現代的な問題を取り上げる。</p>	
	日本国憲法	<p>憲法の授業は、通常、人権と統治機構の二分野で構成される。この授業は、主に人権の分野を中心として進める。法と教育の間に存在する対立と調和を、日本国憲法が想定する「人間像」及び「自由のための教育」という視点から解き進めていく。アメリカの哲学者であるリチャード・ローティによる「個性を開花させる以前に、まずその社会化が行われなければならない。自由のための教育は、自由に対する一定の制約が課された後でなければ始めることができない。」という言明の意味を理解することが目標である。</p>	
	政治学	<p>この授業は、政治を理解するために必要な政治学的な見方や、政治に関わる主要な概念を学ぶことを目的としている。政治学の入門授業として、時事的な問題や各テーマの理解に必要な歴史などをまじえて、政治学や日本の政治のアウトラインがつかめるようにする。政治、民主主義、自由主義など政治に関わる言葉や概念を知る総論的な内容から始めて、選挙やメディア、地方自治、国際政治、外交など様々なテーマを取り上げる。</p>	
社会学	<p>社会学的な考え方を学び、社会や日常生活を複眼的に把握する力を養う。授業では各テーマを通じて社会学の古典を提示するとともに、現代日本社会の状況を社会学がどのように捉えてきたのかを紹介する。可能なかぎり、著作や論文に接し、直にテキストを読む営為を通じて社会学を体感していく。社会学の教科書的・図式的理解ではなく、社会学的な〈センス〉をつかみ、社会を批判していく武器を身につけてもらうことを目的とする。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	1 0 0 イスラム世界	前期はイスラーム勃興の背景とその教義、そして初期の政治史を中心に授業を進める。後期はイスラーム世界において行われた諸学問の概要、及び西欧との関係について講義する。これによって前近代イスラーム世界の基本的事項をおさえるとともに、特にヨーロッパ世界との密接な関係を示すことがこの授業の目的である。	
	ヨーロッパ世界	前期は、「理念の共和国」アメリカにおいて、「自由」と「デモクラシー」の理想が、だれによって、どのように「実現」されてきたのかを、新しい社会史や、環境史、大衆文化史などの方法や実践などを参考にしつつ講じる。おもに南北戦争以後の時代を扱う。 後期は、中世イタリアの都市社会について、商業、都市の政体、財政状況、市民生活などについて論じていく。自由や平等といった都市の中に流れる理念、人々の信仰実践のあり方などに触れつつ授業を展開する。  (96宮田伊知郎/前期15回)「南北戦争以後のアメリカ史」 (95亀長洋子/後期15回)「中世イタリア都市民の世界」	共同
	東アジア世界	前期は、博愛・慈善思想の諸相を探る。前近代のインドや中国、日本を主なエリアとして前近代社会における思想の起源や展開を辿る。後期は、近代社会の中でRed Cross思想がいかに成立し、その後東アジアにおいてどのように展開したかを辿る。この作業を通じ、近代という時代や文化の意味を考察し、また、東アジアのRed Cross思想や活動がグローバルイズムの展開にどのような作用を及ぼしたかを考察する。	
	南アジア世界	この授業は南アジアの歴史を概観し、歴史的な視点から南アジア世界の理解を深めることを狙いとする。南アジア世界は、言語・宗教・カーストなど様々な属性に基づく集団が重層的に混在する「複合的社会」であるとされるが、前期の授業ではそれが度重なる南アジアの外の世界との接触によって成立してきたことを明らかにする。後期の授業においては、植民地支配によって南アジアが経験した「現代」やポストコロニアルという問題、さらには近年注目されるインドの経済成長や南アジア系移民についても取り上げ、現代南アジアが抱える諸問題についての理解を深める。	
	神話学講義	神話とは、世界や人間や文化の起源を語ることによって、いまの世界を基礎づけ、人々に生き方のモデルを提供する聖なる物語であり、神話学とは、その神話を研究する学問である。なお、神話は宗教や祭祀・儀礼と深い関わりを有し、源を共有するともいわれる。それゆえ、神話学は世界をその根源から照らし出す、トータルな知の営みともなるのである。この授業では、世界中の神話の起源や特色にフォークロアの視点から光を射しかける。	
	歴史に見る日本	養老4年に撰上された『日本書紀』は古代史研究において不可欠の史料であるが、編纂物という性格上、その成り立ちと特質について理解を深める必要がある。前期には『日本書紀』が描き出そうとする「歴史」がどのようなものか検討する。後期は、幕末の薩摩藩と長州藩が明治国家成立の原動力になったことは言うまでもないが、その歴史は顕彰され史実とかけ離れている。また、鹿児島と山口は近代日本の従属地域として存在した。その中で、明治維新とは何であったのか鹿児島と山口の歴史から考察する。  (100遠山美都男/前期15回)「『日本書紀』とは何か」 (101鶴飼政志/後期15回)「幕末の薩摩・長州と明治の鹿児島・山口」	共同



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選 択 科 目	1 0 0	<p>総合基礎科目</p> <p>歴史に見る世界</p>	<p>前期は、東地中海に浮かぶクレタ島を取り上げ、ローマ・カトリック、ギリシア正教、イスラームという三つの宗教の鼎立する島の歴史について考えてみたい。中世の地中海世界を、宗教によって分断された世界として理解してしまうことに潜む危険性に気づくことが目的である。後期シルクロード交易の中心を担ったソグド人について学ぶことで、国家の歴史という枠組みを超え、より広い視野でユーラシアの歴史を見ることを試みる。ソグド人の活動は、故郷の中央アジアのソグディアナ地方から遠く中国・モンゴリアに及ぶ。近年新たに出土した資料の紹介などを通して彼らの足跡を追う。</p> <p>(102高田良太/前期15回) 「中世クレタ島と地中海世界」 (103福島恵/後期15回) 「ソグド人から見る東部ユーラシア」</p>	共同
	<p>宗教の現在</p>	<p>幕末以降に誕生した新しい宗教教団は、多少の侮りの意味もこめて「新興宗教」あるいは「擬似宗教」などと呼ばれたこともあった。しかし、時の試練に耐えて生き延びた新宗教教団は、現在では看過できぬほど大きな社会的影響力を有している。また、それら新宗教の活動に刺激を受けた伝統宗教も、それぞれ新生の道を模索している。「21世紀は宗教の時代である」という指摘も、あながち的外れではないのである。この授業では、東アジアの宗教事情から世界の伝統宗教を現状までを視野に入れながら、現代の宗教のあり方を多面的に検証する。更にその考察を通して、「人間の心の回復」という大問題を多方面から探求することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (104林東洋/15回) 「ガイドランス」「現代日本の仏教」「神道の現在」 「予備日」「日本人とキリスト教」「まとめ」「理解度の確認」 (105井上順孝/3回) 「現代宗教への視点」 (109三島まき/3回) 「日本の民族宗教」 (108平沢卓也/3回) 「文学と宗教」 (107丹羽泉/3回) 「韓国の現代宗教」 (106小野純一/3回) 「グローバル化とイスラーム」</p>	オムニバス	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	総 合 基 礎 科 目	1 0 0	
	現代科学	<p>宇宙の誕生から生命の仕組みまで、現代の自然科学とそれを支える技術開発の状況、また研究の考え方・進め方などについて、最先端の研究者を講師としてお招きし、解説していただく。この授業を通じて、現代科学への関心を広げ、科学と人間社会の関わりについて考える材料を発見することを目標とする。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)                      (110持田邦夫/1回)「まとめ」                      (124小宮三四郎/1回)「オリエンテーション/触媒の不思議-セレンディピター」                      (119田崎清明/1回)「ミクロとマクロの物理学」                      (123渡邊匡人/1回)「太陽電池の物理と技術」                      (122横山悦郎/1回)「国際宇宙ステーションにおける氷の結晶成長」                      (125井田大輔/1回)「ブラックホールのエントロピー」                      (121平野琢也/2回)「量子と情報のはなし」「極限を作る技術」                      (131常田佐久/1回)「太陽観測最前線-地球は寒冷化するか?」                      (112赤萩正樹/1回)「超高压化の物質の世界」                      (116稲熊宜之/1回)「機能性セラミックス材料の化学」                      (115石井菊次郎/1回)「地球環境の維持一何が問題なのか」                      (113秋山隆彦/1回)「医療品の合成と有機化学」                      (133西宮伸幸/1回)「2015年に幕をあける水素エネルギー社会」                      (136吉田聡/1回)「ミネラルと健康-元素レベルの健康科学」                      (126浅原弘嗣/1回)「It's not a small world:小さな非翻訳RNAが織りなす遺伝子のフロンティアと医学への応用」                      (111山田澄生/2回)「オイラー関数と暗号」「身近な数学」                      (127小川東/1回)「江戸時代の数学者と現代の科学者」                      (137渡会浩志/1回)「iPS細胞によるがんの免疫治療」                      (132徳川直子/1回)「航空機の空気力学」                      (120菱田卓/1回)「ゲノム不安定性と疾患」                      (128平山孝人/1回)「がん細胞の社会学」                      (135正宗賢/1回)「医療福祉工学」                      (117岡田哲二/1回)「感覚を担う分子」                      (118清末知宏/1回)「植物の概日リズムと花芽形成」                      (114安達卓/1回)「細胞を殺して個体が栄える仕組み」                      (130高橋淑子/1回)「動物の発生」                      (129杉山和夫/1回)「ウイルス感染症を正しく理解するために」                      (134廣野雅文/1回)「太古から保存されている構造;中心子と鞭毛・織毛」</p>	オムニバス
	数学	<p>現在、文系でも数学の知識が広く要求される。そこで、高校2年までの数学に接続して、必要不可欠な微分積分学と若干の線形代数を講義する。数列の極限、三角関数や対数関数などの主な関数とそのグラフ、関数の極限と連続の概念、微分の計算と応用、積分の計算と応用などを丁寧に解説する。経済系の学生にとっては必要最低限の知識であり、他の文系の学生にとっても教養人の常識と考えられる内容である。基本的な数学テクニックが修得できるように例題や演習問題を重視する。適宜、演習や小テストを実施する。</p>	
	歴史の中の数学	<p>数学の誕生から出発して、数学史の流れの中で微分積分学の偉大さを認識するような講義を目指す。天才達のエピソードやアイデアを数多く紹介したい。古代エジプトの数学、古代ギリシャの数学、ルネサンス期の数学、3次方程式物語、デカルトとフェルマーによる座標幾何、ニュートンとライプニッツによる微分積分学の創始、オイラーによる解析学の発展などのトピックスを取り上げる。微分積分学の基本的な技法については、例題や演習問題により、きちんと修得できるようにしたい。</p>	
	現代社会と数学	<p>この授業では「数学は役に立たない」、「数学は難しい」などの誤解を実践的に解消することを目標にする。扱う問題は公務員試験から取ってきているので、日常で有効なものがほとんどであり、小・中学校の知識で解ける。「パズルで頭の体操をしよう」の気持ちで取り組み、数学という学問の真の姿を見つめる。最後の2回は、のり・ハサミ・セロテープを用いて物作り問題に挑戦する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	総合基礎科目 100		
	社会の中の数学	「現代社会と数学」に引き続き、これらの誤解を実践的に解消することを目指とする。ただし、数字や文字に関することや論理的な観点から数学的な思考法に迫る。具体的には、目的・方針の説明、問題配布等、和算の思考法、手順の問題、歯車の回転、言葉の概念の包含関係、暗号の解説、言葉と集合、解説から状況を読み取る。また、統計でだまされないために、視聴率の意味などについて講ずる。	
	時間・空間・物質の科学	文系・理系を問わず、大学で学ぶ社会科学、人文科学、自然科学の根底の教養として、自然界への視野を開き常識を広め、科学的思考の一助となる授業を目的とする。自然とは何かを時間、空間、物質、そして総合としての生命という視点から眺め、自然の成り立ち・仕組みを興味深い現象を通して具体的に見ながら理解し、人間と自然の関わりを考える機会とする。	
	環境・エネルギーの化学	この授業では、前期で化学の基礎を解説、生体を構成する物質の化学について紹介、生命現象を化学で説明をする。後期の授業では、環境、エネルギー、そしてエネルギーを消費している人間との関わりを前期で学んだ化学の視点から解説する。我々が地球という環境の中に他の生物と同様に「生かされている」ことを再認し、個々の地球環境を守る意識と行動が今必要とされていることを理解する。	
	生物学 1	生物のなりたちとふるまいには、進化の過程を経て形成された生物独自の法則が働いている。この法則の解明を目指すのが生物学である。20世紀後半、遺伝子の実体解明を契機に、生物学は全領域にわたって飛躍的な変化を遂げた。この授業では、遺伝子とタンパク質の基本的性質、細胞の成り立ちと働き、およびヒトや各種動物における知覚と運動機能の基礎を概説する。この授業により、われわれ自身の体の働きや認知機能への興味と理解が深まることを期待する。	
	生物学 2	われわれの生活・文化は植物のはたらきに支えられていることを知らなければならぬ。生物学は現代人に求められるリテラシーである。このような背景を考慮して、この授業では、植物の細胞に特有な構造・機能をはじめ、光合成による植物の稼ぎ方、植物の成長・発達を調節するしくみについて概説する。生物学の履修により生物学的な思考力を修得する。	
	心理学	私たちが漠然と抱いている「こころ」と称する対象について、その理解の仕方はさまざまである。この授業では「こころの科学」の理解を目指していく。心理学者たちは、見ることも触れることもできない対象である「こころ」をどのようにして科学的に捉えようとしているのか。まず、心理学の成立の背景事情にふれながら心理学の視点について考え、「こころ」の心理学的な考え方の理解に努める。これを踏まえ、「こころ」のもつさまざまな側面の理解を通じて、その優れた環境適応性を考える。	
スポーツと健康を考える	スポーツ科学や健康科学を通して、競技パフォーマンスの向上や健康の維持増進に必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とする。  (オムニバス形式/全30回) (145羽田雄一/10回)「オリエンテーション」「体力トレーニング(①骨格筋の構造と筋収縮・②トレーニングの原理・原則・③筋力トレーニング・④パワートレーニング・⑤持久力トレーニング・⑥調整力・柔軟性トレーニング・⑦トレーニング計画)」「スポーツバイオメカニクス」「テスト」 (147廣紀江/10回)「嗜好品について」「薬物について」「運動と栄養(栄養について)」「運動と栄養(エネルギー代謝について)」「痩せと肥満について」「心の健康(心身相関・ストレスについて)」「現代人の健康-3大死因(ガン、心臓病、脳血管係疾患)」「現代人の健康-生活習慣病(高血圧、動脈硬化、糖尿病)」「救急法」「まとめ」 (146高丸功/10回)「スポーツの歴史」「オリンピックとスポーツ」「スポーツ種目の特性」「スポーツと技術」「運動学習」「スポーツと動機づけ」「パフォーマンスとこころ」「メンタルマネジメント①・②」「テスト」	オムニバス	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	総合基礎科目 1 0 0	スポーツ科学演習	
	生命論	<p>前期は、新たな死の形としての&lt;脳死&gt;や移植医療、高度な延命医療とその是非、また生殖補助医療や遺伝子操作等の問題についての基本的な理解を構築するとともに、日本及び世界の動向にも目を向けながら、医療行為を通じて確保、実現されるべき&lt;生命の質 (quality of life)&gt;、その意味について考える。後期は、「つながり」をキーワードに、東洋的思惟の立場から「いのち」を考える。生命現象についての日本人の言説を軸に、中国・インドの考え方と比較検討し、その上で、生命をめぐる現代の様々な問題について考える。</p> <p>(149岡野浩/前期15回)「人の&lt;死&gt;と&lt;誕生&gt;をめぐる倫理」 (150島田健太郎/後期15回)「東洋の生命論」</p>	共同
	エコロジー (環境問題の基礎)	<p>環境問題は地域的な問題から地球規模の問題まで様々だが、我々の経済活動に起因している点で共通している。東日本大震災以降注目を集めている資源エネルギーも環境問題と表裏一体である。環境問題は学際的な問題であり、解決には様々な分野の専門的知見が求められるが、この授業では環境問題を理解する基本概念を学んだ上で、現在の地球温暖化問題だけでなく、過去の公害問題とそれらへの政策的対応まで含めて、この基本概念の応用を行い、学生が幅広い環境問題を基本的な概念の応用によって読み解けるようになることを目指す。</p>	
	エコロジー・環境論 1	<p>この授業では、「廃棄物問題とリサイクル」に焦点を置く。その歴史、廃棄物管理の考え方、自然界での物質循環との関連、企業における環境対策技術、自治体における取り組み、国際的な動きなどについて、分かり易く解説する。また、企業や自治体の専門家による講義も予定されている。身近な事柄からグローバルな問題まで、廃棄物を中心に、エコロジーと環境について考察する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回) (152岡村りら/3回)「序論及び概説」「廃棄物とは?」「海外での取り組み:ドイツの事例」 (156大隅多加志/2回)「廃棄物管理の自然科学からの知見」「環境ホルモンと生態系」 (158陶山純子/1回)「企業における取り組み(1)都市鉱山と資源リサイクル」 (154天知誠吾/2回)「自然界での物質循環における環境微生物の役割」「微生物を用いた環境保全技術」 (155位地正年/1回)「企業における取り組み(2) バイオプラスチック」 (153村松康行/1回)「放射性廃棄物とその処分」 (157加藤正/1回)「自治体の取り組み」 (159坂木泰三/1回)「企業における取り組み(3) 環境負荷削減技術の開発」 (岡村、村松、大隅/3回)「私たちができる取り組み」</p>	オムニバス

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 総合基礎科目	100	この授業では、「地球温暖化」に焦点を置き、気候変動の原因やその対策について、広い視点から考える力を養うことを目的とする。具体的には、自然界における二酸化炭素の循環を紹介し、過去における二酸化炭素濃度の変化と気候変動、温暖化のメカニズム、エネルギー問題、温暖化対策技術や考え方などを紹介する。  (オムニバス形式/全15回) (153村松康行/3回)「序論及び概説」「温暖化の原因とメカニズム」「グローバルな視点から見た気候変動」 (156大隅多加志/3回)「温暖化による諸問題」「エネルギー問題」「二酸化炭素の処理処分」 (152岡村りら/4回)「気候変動防止の政策と対策-1」「気候変動に対する海外の取り組み」「気候変動防止の政策と対策-2」 (163渡部良朋/1回)「森林・農地の機能と役割」 (161久保田泉/1回)「温暖化の国際交渉」 (160相田智/1回)「温暖化対策技術(1) エコカーの現状と今後」 (162山崎隆司/1回)「温暖化対策技術(2) 都市部商業地区における取り組み」 (村松、岡村、大隅など/1回)「私たちができる取り組み」	オムニバス
	エコロジー・環境論2	この授業では、いわゆる「理論」と「実践」を区別するのではなく、一体としてとらえ、私たちを取り巻くさまざまな福祉の分野から、各専門の講師を招き、今日の現状と緊急の課題について明らかにする。各講師は、貧困・低所得者、エイズ、老人医療、高齢者福祉政策、女性福祉、家族福祉、児童福祉、行動福祉、医療保険などであり、行政機関職員、NPO職員、医師、福祉関係学科教員、スーパーヴァイザー、ソーシャルワーカーなどとして、現場の第一線で活躍している。各授業を通じ、リアルタイムの現実の一つ一つ触れながら、あらためて「幸せとは何か」、「生きがいとは何か」について考察する。  (オムニバス形式/全30回) (149岡野浩/7回)「ガイダンス」「福祉」とはどのような意味か。」「共生社会のあるべき姿を求めて(1)」「共生社会のあるべき姿を求めて(2)」「まとめ」 (47酒井潔/1回)「家族福祉から「共生」を考える」 (166大迫正晴/2回)「ホームレスの現状とその支援」「生活保護の現状と課題」 (165池上千寿子/2回)「エイズをめぐる諸問題」 (170高橋龍太郎/3回)「老人医療と福祉」 (172馬場純子/2回)「高齢者福祉と介護保険制度」 (167奥川幸子/3回)「老人問題の現場から」 (173堀千鶴子/2回)「女性福祉」 (171武井かおる/1回)「女性保護事業の現場から」 (169鈴木公基/3回)「児童福祉」 (168小野昌彦/3回)「障害児・不登校・行動福祉」 (164遠藤久夫/1回)「医療・保険」	オムニバス
	福祉	この授業は、ボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察することで、学生のボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機とすることを目的とする。  (オムニバス形式/全30回) (174長沼豊/9回)「ボランティア概論」「学校教育とボランティア」 (181森良/3回)「まちづくりとボランティア」 (175伊藤忠弘/3回)「心理学から見たボランティア」 (178三具淳子/3回)「高齢社会とボランティア」 (180野呂純一/3回)「経済活動とボランティア」 (179妹尾信孝/3回)「福祉・人権とボランティア」 (148佐藤陽治/2回)「本学学生のボランティア」 (176眞嶋史叙/1回)「国際協力とボランティア」 (177安藤雄太/3回)「市民社会とボランティア」	オムニバス
ボランティア論			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	1 0 0  総合 基礎 科目	<p>ジェンダーと文化</p> <p>ジェンダー研究は女らしさだけではなく、男らしさもまた社会・文化的に形成されたものであることを明らかにした。男性学とは、男性が男性であるがゆえに抱える「男性問題」を、ジェンダーの視点から問う学問である。この授業では、現代の日本社会を中心に、男らしさをめぐる諸問題について考察する。各種の調査データや映像資料などを参照し、どのように男らしさが社会的・文化的に作られるのかを考察する。学術的な議論に終始するのではなく、仕事や恋愛などの身近なテーマを取り上げることで、学生が自分の問題としてジェンダーを考えることを目標とする。</p>	
	<p>記録保存と現代</p> <p>近年、ずさんな「記録保存」が私たち国民の権利を脅かしている現状が、各方面で次々と明るみに出ている。「記録」や「文書」は歴史の重要な史料であり、記憶を未来に伝えるための大切な証拠であるだけでなく、現代に生きる私たちの人権や生命を守るための情報資源でもあることが指摘されている。このような考え方にに基づき、あらゆる方面で現代社会に不可欠な記憶装置として重要視されつつある「アーカイブズ」について世界と日本における歴史と現状を紹介する。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)                      (183安藤正人/7回)「オリエンテーション」「古代世界のアーカイブズ」「戦争・植民地支配とアーカイブズ」「現代アーカイブズ概論」「1年間の総括」「まとめ」「予備日」                      (184高埜利彦/1回)「現代社会とアーカイブズ-総論-」                      (186中野隆生/1回)「ヨーロッパにおけるアーカイブズの発展」                      (200富善一敏/2回)「日本近世のアーカイブズ(1)」                      (202渡邊佳子/1回)「日本近代のアーカイブズ」                      (191青木祐一/2回)「日本近世のアーカイブズ(2)」                      (198高橋実/1回)「戦後日本のアーカイブズ運動」                      (192小川千代子/2回)「世界のアーカイブズ(北米)」「世界のアーカイブズ(国際団体)」                      (201森本祥子/1回)「世界のアーカイブズ(ヨーロッパ、オーストラリア)」                      (199高松洋一/1回)「世界のアーカイブズ(中東)」                      (194金慶南/1回)「世界のアーカイブズ(韓国)」                      (185武内房司/1回)「世界のアーカイブズ(中国、東南アジア)」                      (196小宮山敏和/1回)「日本の国立アーカイブズ」                      (197高木秀彰/1回)「日本の地方自治体アーカイブズ」                      (189青木直己/1回)「日本の企業アーカイブズ」                      (188桑尾光太郎/1回)「日本の大学アーカイブズ」                      (193菊谷英司/1回)「日本の自然科学アーカイブズ」                      (195児玉優子/1回)「日本の音声・映像アーカイブズ」                      (190青木睦/2回)「アーカイブズの保存」                      (187保坂裕興/1回)「アーキビストの教育と養成」</p>	オムニバス	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	総合 基礎 科目	1 0 0	
	記録管理と組織	<p>「記録」や「文書」は歴史の重要な史料であり、記憶を未来に伝えるための大切な証拠であることは言うまでもない。いま日本では、あらゆる方面でアーカイブズの構築が始まっている。自治体や企業・大学・団体、あるいは理系・文系・芸術系など、分野を問わずアーカイブズは現代社会に不可欠な記憶装置として重要視されつつある。よって、多様な講義を楽しみながら、「記録保存」が現代社会に持つ意義を一緒に考察することを目的とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)                      (183安藤正人/3回)「オリエンテーション」「記録管理と組織」「まとめ」                      (205水野保/4回)「記録管理の歴史と現在(1)」「記録管理の歴史と現在(2)」「記録管理の歴史と現在(3)」「記録管理の歴史と現在(4)」                      (204水口政次/4回)「現代の行政と記録管理(1)」「現代の行政と記録管理(2)」「現代の行政と記録管理(3)」「現代の行政と記録管理(4)」                      (203松崎裕子/4回)「現代の企業と記録管理(1)」「現代の企業と記録管理(2)」「現代の企業と記録管理(3)」「現代の企業と記録管理(4)」</p>	オムニバス
	生活と法	<p>裁判員制度に代表されるように、専門家でない市民が法律に深く関わる場面は、現代社会において増している。犯罪と刑罰に関する法、すなわち刑事法は、日常生活の中にも浸透している。もともと、刑事法の中には、変化の目まぐるしい現代社会において新たに形成されたもの、社会の発展や社会問題の解決に役立っていないものがある。この授業では、刑事法に関する基本事項を概観した上で、日常生活における様々な場面と刑事法との関わりを説明し、刑事法の意義や働き、限界を理解することを目的とする。更に、これらの社会問題に関連した刑事法の知識の修得にとどまらず、その解決に向けて刑事法はどのようにあるべきかという問題意識のもとに、各種制度のあり方について考察する。</p>	
	アジアを学ぶ	<p>この授業では東アジア研究と学習院の関係について、研究所が刊行した様々な書籍を通じて学ぶ。研究所では中国の古典籍、植民地朝鮮の記録・文書・地図類など多様な形態の文献資料の集積・研究が進められており、また、歴史だけでなく政治・経済・哲学・教育学などの研究成果も数多く刊行されている。この授業では、最先端の研究成果に触れることで、高校の授業で教えられる学問が広大な学問世界の一部でしかないことを、理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)                      (207海老根量介/8回)「ガイダンス」「資料と研究」「中国研究の基礎知識」「東洋文化研究所の中国コレクション1(漢籍)」「東洋文化研究所の中国コレクション2(近代中国関係資料)」「中国研究の成果普及」「東洋文化研究所所蔵資料の活用について(兼・調査実習)」「理解度確認」                      (208辻大和/7回)「学習院とアジア研究1」「学習院とアジア研究2」「韓国朝鮮研究の基礎知識」「東洋文化研究所の韓国朝鮮コレクション1(友邦文庫)」「東洋文化研究所の韓国朝鮮コレクション2(友邦文庫録音記録)」「韓国朝鮮研究の成果普及」「東洋文化研究所資料調査実習」</p>	オムニバス
	日本語表現法	<p>社会人にとって求められる日本語力は、目上の人に対する正確なコミュニケーション表現と、ビジネス文書などを書く際的確な表現力である。この授業では、社会人になるために必要とされる日本語表現力を、ビジネスコミュニケーション、およびビジネス文書を通して学習していく。社会人として求められるより正確で簡潔な表現力を大学生のうちに学習することで、大人の文章力を理解し、社会人になるための第一歩として大人の文章力を育成することを目的とする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選 択 科 目	総合 基礎 科目	1 0 0  キャリア・デザイン概論	人生の道筋が「キャリア」と呼ばれるものであり、それを過ぎし日に顧みるのではなく、今後歩もうとしている道筋を、自分でデザインして進むことを目的とする。学生生活や卒業後のキャリアをデザインするのは、学生自身であり、人生を主体的に送るための勉強となる。この授業では、それを実現させるために必要なビジネス社会、企業組織の知識、社会人として必要な基礎的能力など、企業や社会が学生に期待している知識や力の修得を目指す。更に、自分の一生についてもイメージし、自己理解や適性理解のための学習も行う。	
		英語で学ぶ日本事情－文化・社会・科学	この授業では、法学部、経済学部、文学部、理学部に所属する6名の教員が、各専門分野の一端について、もっぱら英語でオムニバス形式の授業を行う。この授業を通じて、外国からの留学生に日本の現状を知ってもらおうと同時に、日本人の学生には各専門分野について行われる英語表現やダイアログに触れてもらう。また、外国人・日本人いずれの学生に対しても、本学の教員が行っている最先端の研究成果について学び、探求する機会を提供するので、この授業を異文化交流の場とすることも目的である。  (オムニバス形式/全15回) (211水野謙/3回)「ガイダンスと日本民法1」「日本民法2」「予備日」 (212桂木隆夫/2回)「公共哲学1」「公共哲学2」 (42小塚荘一郎/2回)「日本のビジネスと法1」「日本のビジネスと法2」 (213細野薫/2回)「日本経済1」「日本経済2」 (214金田智子/2回)「日本文化と言語1」「日本文化と言語2」 (215高橋利宏/2回)「日本の物質科学1」「日本の物質科学2」 (111山田澄生/2回)「現代数学と日本の数学者たち1」「現代数学と日本の数学者たち2」	オムニバス
	近代日本と学習院	学習院は幕末の京都におかれた学問所を淵源とし、1877年に東京に開設された。第二次世界大戦後の官学から私学への転換を経て、1949年に学習院大学が開学した。160年余にわたる学習院のあゆみは日本近代・現代の歴史と深く関わり、卒業生や教員は政治・軍事・文芸・学術ほか多分野で活躍してきた。私達が日常を送る身近な場所を題材に、近代・現代の諸問題を考えることが授業の目的である。授業では学習院に関する史資料を紹介する。大学の組織・教育研究・キャンパスや課外活動の形成と変化、及び学生や教職員が何を考えどのように行動したかを、史資料から読み取り大学で学ぶ意味を考察する。担当者は2人であるが、明確な分担はせず、共同授業の予定である。	共同	
	スポーツ・健康科学Ⅰ	年間を通して、健康・体力の維持増進を図ることを目的とする。毎授業時間の始めに体力トレーニングを行い、学生各自が実習ノートに記録をつける。また、健康及び体力に関わる講義、及びトレーニングルームを使用した授業を年に数回行う。原則としてスポーツ種目を1つ選択し、実践を通して、技能の向上とともにゲームの進め方や、他者との協力などを学ぶ。技能面では、各スポーツごとに段階的に練習し、ゲームを実践していく。		
	スポーツ・健康科学Ⅲ a	基礎技術のレベルアップを図り、戦術に対する理解を深め、より高度なゲームがいつでも誰とでも楽しく展開できるようになることを目標とする。また、スポーツを通して仲間とコミュニケーションを図り、目標達成に向けて協力し合う態度や能力を高める。		
	スポーツ・健康科学Ⅲ b	生涯スポーツとして、スキー・スノーボード・ゴルフを基本技術、ルールとマナーを理解し、安全で楽しいスポーツを体験して学ぶことを目的とする。		
	初等情報処理2	「初等情報処理1」と目的は同じであるが、「初等情報処理2」では各ソフトウェアをよりうまく使いこなすために、より詳しい使い方を学ぶ。各ソフトのデータを有機的に連携させることができるようにし、高度なプレゼンテーションの方法を学ぶ。		



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選 択 科 目	総 合 基 礎 科 目	1 0 0		
		ドイツ語B (初級)	初めてドイツ語を学ぶ人のための、ドイツ語文法の授業であり、1年間でひと通りの基礎文法を学ぶ。ドイツ語は英語と比べれば、文法上の例外が少ない言葉であるため、基礎をしっかりと身につけると、自分でドイツ語が自由に読めるようになる。「ドイツ語文法」と言うと堅く聞こえるが、「ドイツ語を読むコツ」と考え、楽しみながら身につけることを目的とする。	
		ドイツ語C (初級)	ドイツ語の初級文法を確認しつつ、「読む、聞く、書く、話す」という4種のコミュニケーション能力を総合的に身に付けていくことをねらいとする。しかし、「ドイツ語」のみならず、ドイツ語圏の文化や生活習慣等の情報にも目を向けるため、使用する教材は、ドイツでの生活や社会的・文化的慣習等を紹介しつつ、「ドイツ語が身につくよう工夫された教科書を用いる。教科書の順序にしたがって、ドイツ語の発音、文法、読解練習をするが、また、ドイツの風習などを紹介する写真等も見るとする。	
		ドイツ語R (中級)	初級文法を終えた学生を対象とし、ドイツ語読解力の向上を目的とする。作文、文法練習なども、バランスよく加えながら、ドイツ語中級の読解力を養う。教科書には練習問題つきの読解教材を用いる。CDを聞いて、たくさん発音練習もしながら精読し、ドイツ語の読解力をつける。	
		ドイツ語C (中級)	1年次に学習した初級文法を確認し、さらに初級では深く追えなかった中級レベルの文法について新たに学習する。復習するにせよ新たに学ぶにせよ、どんな文法事項も学生自身がドイツ語で表現する際に実際に使えるかどうかが大変である。	
		ドイツ語R (上級)	テキスト理解を深めるのに必要なドイツ語圏の社会、文化、歴史等に関する知識を踏まえた、高度な読解力を身につけることを目標とする。読解中心になるが、その都度テキストの内容や背景に関し、学生が意見を述べたり、討論するような形にしたいので、学生には積極的な参加を期待する。出来るだけ多くの文章を読む予定であるが、消化不良を起こしては意味がないので、無理のない進捗で進めるつもりである。また、時間の許す限りテキスト理解やドイツ語圏の生活・文化理解のために、写真等も見るとする。	
		ドイツ語C (上級)	「ドイツ語C (中級)」までに学んだことを基礎として、さらに総合的なドイツ語運用能力を身につけることを目的とする。聞き取り、発話、語彙を増やすことなど、総合的な練習を行う。最初の授業で、参加者の力と興味に応じて、テキストを決定する。	
		ドイツ語セミナー	ドイツ語圏およびヨーロッパの政治・社会・芸術・文化などに関するアクチュアルな話題や時事問題を取り上げ、日本の事情と比較しながらドイツの魅力に触れる。ディスカッション形式で授業を行うが、上級者でなくても参加可能。ドイツ語で会話をしたことがない初心者であっても、初めは知っている単語を並べながら、話したり聞いたりする練習を行い、次第にさまざまな文章表現を学んでいくことで、最終的に自らの意見を表現できるようにしていきたい。ドイツの事情について知識を深めるとともに、自らの考えを身につける訓練の場とする。	
フランス語B (初級)	初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の運用に必要な文法的知識の修得を目指す。発音、綴りの規則、動詞の活用、語彙などの必須暗記項目の修得のための演習と、文法理解のための解説が中心になる。基本的に教科書に沿って進めていくが、必要に応じて重要な項目には解説にも問題演習にも多くの時間を割き、できるだけ授業内で十分な理解が得られるように努める。中級程度の文章を仏和辞典を引きながら独力で理解できるようになることを最終的な目標とする。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選 択 科 目	総 合 基 礎 科 目	1 0 0		
		フランス語C (初級)	初めてフランス語に触れる学生を対象に、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」ことをバランスよく修得することを目的とする。実際に使えるフランス語の文章を暗唱したり、ゲーム感覚のペアワークを行いながら、自然に、楽しみながらフランス語に慣れていく。実用フランス語技能検定4級合格レベルを目指す。文法を中心に学習する「ベーシック」と併せて履修することが原則だが、「コミュニケーション」初級のみ履修も可能。	
		フランス語R (中級)	フランスの時事的なトピックを分かりやすくまとめた文章を読みながら、初級の授業で学んだ文法知識を確認し、読解力を養う。前期は、発音、基本的な文法事項の確認に重点を置く。後期は、法や時制などの文法項目についてのより体系的な理解を通して実践的な読解力を養う。教科書に沿って第1課から本文を読み進めながらフランス語読解のポイントを確認していく。また、より実際のフランス語の文章に触れるため、新聞、雑誌、小説などから「生の」文章を選び、読解力を試す機会を設ける。	
		フランス語C (中級)	コミュニカティブかつインタラクティブな教授法に基づいて、5分程度の会話文を作成し、最終的に学生同士で自発的に楽しみながら模擬会話を行う。毎回、その日の授業に必要な語彙・発音・文法を学習したうえで、2・3人のグループを作り、以下のようなテーマに関して自分たちの知識を生かしながら対話からなる議論を作成し、実際に、家族・休暇・ホビー・勉強・ライフスタイルなどをテーマに会話を模倣してみる。	
		フランス語R (上級)	この授業では、20世紀で最も絶賛され、自身を詩人と呼ぶのを拒んだフランス・ボンジュの詩を読み解く。彼は、じゃがいも、牡蠣、キャンドルなどの物にフォーカスした第一人者である。この授業では、Le Parti pris des chosesやLa Rage de l'expressionの短文を読み、批評する。また、書籍から、ボンジュの美学がどのように進化したのか考察する。そして、La Fabrique du pre、Pieces、Le Savonを読み、その特徴を考察する。	
		フランス語C (上級)	フランス映画をめぐる「議論」と「会話」ー近年公開の映画を授業中に鑑賞しながら語彙を学び、同時代の文化に触れる。段階的に映像を流す合間に、学生は教員や他の学生と、映画中の描写や関心のある会話表現について議論する。	
		フランス語セミナー	この授業では、質疑応答、仕事を探す上で必要なフランス語能力を修得することを目的とする。学生は、この授業で、メール、友人への手紙、映画やイベントを紹介する文章、短い記事、履歴書などの作成方法を修得する。	
		中国語B (初級)	中国語文法の骨格を理解し、身につけることを目的とする。文法の参考書を教科書に使い、一年で重要な文法事項の説明を終える。毎週、重要文法事項を含む例文を約10ずつ録音・暗記してもらい、中国語の聞き取り(ピンイン・漢字・日本語訳)及び日本語からの中国語訳(ピンイン・漢字)の小テストを行う。小テストの後には、学生による例文の暗誦を行う。作業的には負担が重いが、実際に使える中国語の基礎が形成されることは保証する。	
中国語C (初級)	中国語初修者のための授業で、まず、基本的発音を修得しアクセントの表記を正確に理解し、声調を体得することを目指す。そして、ピンイン字母で表記された音節を見て正確に発音し、聞き取り、書き取れることを目標とする。さらに、基本的な語彙を身につけ、それらを用いた基本文型をマスターして、数語からなる短文を理解して、会話で簡単な意思を表現することができることを目指す。授業ではほとんど暗唱をして、コミュニケーション能力を養成することを重視する。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選 択 科 目	総 合 基 礎 科 目	1 0 0		
		中国語R (中級)	初級で修得した語彙や文法事項に関する知識をさらに発展させて、各文の構造を解析して理解し、読解できる能力を身につける。まず、中国の現在を題材とした平易な文章を読解し、中国の政治経済、社会、文化などについての理解を深める。当初はピンイン付き教材を用いるが、最終的には、ピンインなしの原文を読むことを目標とし、さらに、中国語新聞やインターネット上の中国語の記事の読解を視野に入れた語学力の育成を目標とする。	
		中国語C (中級)	この授業では、短文を多く暗記することで作文能力を伸ばすことを目指す。具体的には、教科書にでてくる短文を、一回の授業で重要文法事項ごとに10から20程学習し、その漢字・ピンイン・日本語訳をセットで記憶するとともに、当該中国語分の暗誦を課す。そして次回の授業の始めに、課題文を対象とした聞き取り小テストを行い、記憶のレベルを確かめる。その後、各文の暗誦を順番にあてて行う。授業中には、新たな文法事項に即して新短文を学習しつつ、既習の文の構造と単語を基礎とした作文練習を行い、作文能力の向上を図る。	
		中国語R (上級)	中国語の文章を多読することで中級修了者の中国語能力のさらなる向上を目指す。漢語詞典(中国語の原語の辞典)を利用して語彙を増やし、文章の論理構造を理解して読解することを意識させる。中国の社会や歴史、文化を知るだけでなく、現代中国を研究対象とする場合には不可欠なインターネット上の文章や中国語ワープロにも触れて、できるだけ多様な内容の文章に接し実力を高めたい。また、簡体字だけではなく、繁体字の文章も対象とすることで、台湾・香港の文献にもアクセスできるようにすることを目指す。	
		中国語C (上級)	中国語の中級修了者及び中検3級合格者又は合格を目指す程度の学力を有する学生を対象に、会話力の向上を目的とする。会話力の向上には先ず正しい発音、語彙力、文法の応用力、そして慣用表現の修得が必要となる。この授業では中級までに学習した内容を更に深く掘り下げて定着を図り、自分が表現したいことを、より明確に表現できることを目指す。基本的には指定した教科書に沿って授業を進めるが、学生の学習歴や習熟度に応じて内容を追加、または高度化する。	
		中国語セミナー	中国語の中級修了者及び中検3級合格者又は合格を目指す程度の学力を有する学生を対象に、会話力の向上を目的とする。会話力の向上には先ず正しい発音、語彙力、文法の応用力、そして慣用表現の修得が必要となる。この授業では中級までに学習した内容を更に深く掘り下げて定着を図り、自分が表現したいことを、より明確に表現できることを目指す。基本的には指定した教科書に沿って授業を進めるが、学生の学習歴や習熟度に応じて内容を追加、または高度化する。	
		ロシア語B (初級)	この授業では1年間でロシア語文法の初歩を学び(ロシア語検定4級程度)、さらに学習を続けていくためのしっかりとした土台づくりをすることをねらいとする。ロシア語は大学以外では学ぶ機会の少ない言語である。ぜひこの機会にロシア語の世界を覗いてほしい。	
		ロシア語C (初級)	ロシア語は、国連で用いられている公用語の一つで、国際社会で重要な位置を占める言語である。ロシア語を通じて世界を広げていくことが授業の目的である。初めにロシア連邦の社会・文化についての一般的な紹介を行い、アルファベット・単語の発音・アクセント・イントネーションを学習する。その後、教科書に基づいて授業を進める。1) 会話: 基本文型を応用し質疑応答をおこなう。2) 読解: 理解しつつテキストを音読できるようにする。3) 書き取り: 基本的フレーズを書き取れるようにする。	
ロシア語R (中級)	「ロシア語B (初級)」の続編の授業であるが、ロシア語の初歩を学んだことのある人であれば誰でも受講することができる。「ロシア語B (初級)」の授業で用いた教科書をすべて終えた後は、プリント教材を用いて、中級のロシア語力(ロシア語検定3級程度)を習得することをねらいとする。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選 択 科 目	総 合 基 礎 科 目	1 0 0		
		ロシア語C (中級)	ロシア語は、国連で用いられている公用語の一つで、国際社会で重要な位置を占める言語である。ロシア語を通じて、世界を広げていくことが目的である。「ロシア語C (初級)」の続編の授業で、教科書に基づいて授業を進める。1) 会話：基本文型を応用し質疑応答をおこなう。2) 読解：理解しつつテキストを音読できるようにする。3) 書き取り：基本的フレーズを書き取れるようにする。同時に初級で学んだ発音・文法・テキストの復習を行う。	
		スペイン語B (初級)	アルファベット、正しい発音を習得し音読の基礎を培うことを第一の目標とする。次にスペイン語の初級文法と最低限の語彙を身につけ、最終的には客観的な事実や自分の考えを、基本的な構文を用いて口頭で表現できるようになる。また、辞書を引きながら簡単な文章を読むことができるようにする。	
		スペイン語C (初級)	この授業の目的は、スペイン語での会話能力を身につけることにある。読み書きも授業内容に含まれてはいるが、主に重点を置いているのはスピーキングとヒアリングである。授業はそれらを中心に行う。授業が終わったときの最終目標としてスペイン語での日常会話を現在形・過去形・未来形を使って会話できるようにする。	
		スペイン語R (中級)	文法の基礎を習得した事を踏まえて、スペインに関するまとまった文章を読みこなす力を身につける。必要に応じて適宜文法的な説明も交えながら読み進める。声に出して読む練習も積極的に行う。	
		スペイン語C (中級)	学生たちには初年度に学んだスペイン語会話の知識をさらに強固にするとともにその知識をさらにふくらませていく。情報などをさらに正しく、確実に、完全な形のスペイン語会話を用いて相手と会話できるようにする。これらのことから、さらに言葉の込み入った働きや言葉の構造を学ぶ。	
		イタリア語B (初級)	言葉は人と人が向き合うところに立ち上がる。外国語の学習は、もはや当たり前になってしまった母国語をひとたび忘れ、新しい言葉が立ち上がってくる場所での経験をやりなおすことにほかならない。したがってこの授業では、イタリア語の日常会話から始め、聞き慣れないことばの響きのなかに身をおき、そのおぼろげな意味を探りながら、ペアワークを通してその決まりごとを発見してゆく。その目標は、学習者が身体的なところからイタリア語の言語的特徴に接近し、そこから文法構成を実感的に修得、将来的に独力で学習を継続できるようにするところにある。	
		イタリア語C (初級)	イタリア語を初めて学ぶ人を対象にした授業であり、「話す・聞く・読む・書く」の4つの能力を伸ばすことを目指すが、特に「話す」能力に主眼を置く。イタリア語の簡単な挨拶・会話表現と同時に基本的な文法を学び、パルや学校など様々な場面でイタリア語が話せるようになることを目標とする。また、テキストだけではなく、雑誌や音楽などを通して、イタリアの文化についても授業の中で触れる。	
		イタリア語R (中級)	リーディングの授業では、イタリア語のテキストをまず「読む」ことから始まる。しかし「読む」という作業は、それ自体によって完結するものではありません。人はしばしば、「読みとられたもの」を「書きとめよう」とし、あるいはそれについて誰かと「話してみよう」とするのではないか。そんな自然な流れのなかで、誤解や誤読は、新しい「読み」の手がかりとなって乗り越えられてゆき、そうすることで「読み」の精度は高められ、内容も深まりをみせるのである。このように、誤解と理解のあいだを揺れ動きながら、常にあたらしい「読み」へと進んでいこうとするのが、この授業の目的である。	
イタリア語C (中級)	イタリア語初級を修了した人を対象にした授業である。より高度な会話表現を身につけるとともに、語彙の習得、作文・リスニング能力の強化にも力を入れる。同時に「話す・聴く・読む・書く」の4つの能力を高めることで、イタリア語で自己表現ができるようになるのが目的である。テキストだけではなく、雑誌や音楽などを通して、イタリアの文化についても授業の中で触れる。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際社会科学部国際社会科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
選 択 科 目	1 0 0	総 合 基 礎 科 目	朝鮮語B (初級)	最近ドラマ・音楽・映画など多様な文化と接する機会が増え、韓国文化に関心を持つ人も増えている。よって民間レベルでも日韓交流が活発となっており、朝鮮語を学びたいという人が増加している。この授業では韓国語の基礎をしっかりと学び、韓国の伝統と文化を楽しく学ぶ。簡単な日常会話ができ、積極的な日韓交流に役に立つことがこの授業のねらいである。	
	朝鮮語C (初級)		持続可能な社会を目指すために「異文化との対話」は重要なキーワードとなっている。この授業では前期に朝鮮語の基礎をしっかりと学び、近隣国と似ていながら異なっている文化に触れる。後期には、韓国の現代のドラマや映画を見ながら聞き取り練習を行い、それらを通して見える日韓の文化を比較する。		
	朝鮮語R (中級)		この授業は、朝鮮語の初級文法を履修し、より本格的な文章講読を希望する学生のためのクラスである。実際の文章講読を通して読解力を身につけることを目標とする。必要に応じて適宜文法的な説明も交えながら読み進める。また、読み物に韓国の社会・文化に関する内容を取り上げ、言葉だけでなく勧告の文化についても理解を深める。教室での活動は主に文章講読であるが、読み物の内容について、話し合う・書くなどの言語活動を取り入れ、言語の4技能の習得につなげる。		
	朝鮮語C (中級)		朝鮮語C (初級) の修了者もしくは同程度の水準の学生を対象にし、少し程度が高い会話文を学習する。より正確な発音で自然な会話ができるように何回も読み、暗記する。暗記した会話文に感情と動作を入れ、実践に活かす訓練を行う。また、実際に韓国を訪問する時に役に立つように、韓国人と電話をすることから食堂で食事を注文することまで、いろいろな場面での会話を勉強する。		
	アラビア語B (初級)		アラビア文字の読み書き、基本語彙、基礎文法の習得に加えて、簡単な会話ができるようになることを目指す。		
	アラビア語C (初級)		アラビア語文字の読み書き、と正しい発音を学ぶ。基本的な文法を身につけ、応用会話につなげる練習を行う。アラビア語の数字の読みと活用は難しいが、時間をかけて、これをしっかりとマスターすることを目指す。扱う語彙は約200語程度。このほか、折に触れてアラブ諸国やイスラムの社会、文化、風土についても学ぶ。		
	アラビア語R (中級)		発音記号のついたテキストが正確に読めるようになることを目的とする。そのために必要な文法知識の修得と、辞書を引く練習を重点的に行う。		
	アラビア語C (中級)		動詞の活用を学び、完了、未完了、未完了接続形、未完了短形、命令形、派生形、不規則動詞を正しく活用できるようになることを目指す。単語を語根に戻して、Hans Wehrの辞書を引いて意味を調べられるようにする。短い文を作ったり、読んだりする練習をたくさんして、語彙力、会話力を伸ばす。授業で扱う語彙は300～400語程度。このほか、折に触れてアラブ諸国やイスラムの社会、文化、風土、時事用語についても学ぶ。		
	日本語C (上級)		テキスト『国境を越えて』の各課のテーマに沿って日本社会を読み解き、大学生としての一般教養的知識を学び、日本語の理解力と表現力を養う。「自然・風土の多様性」「人の移動と移民問題」「日本の近代化と戦後経済改革」等のテーマについて、挑発的・刺激的な意見を提示し、それを呼び水として、あるテーマについて自ら調べ、調べたことを文章や高等で発表し、議論できるようになることを目標とする。		

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。